

## 和仏法律学校講義録

下村, 宏 / 赤司, 鷹一郎 / 杉本, 貞治郎 / 金井, 延 / 有賀, 長文

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-12

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

43

(発行年 / Year)

1899-07-25



級  
指  
引

# 和佛經濟學講義 第一卷

每月貳回

目次

經濟學(自七五頁)法學博士金井 延

財政學(自八九頁)法學士有賀長文

商法總則(自五四頁)法學士杉本貞治郎

財政學(自三二頁)法學士下村 宏

第拾貳號

商法商行爲(自二〇頁)法學士赤司鷹一郎

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3

090  
1899  
2-1-12

蓋シ經濟ヲフ語ハ泰西ノ學問カ未タ我邦ニ入ラザリシ以前ニ於テ既ニ往々  
使用サレタルモノニシテ民法商法等ノ如ク西洋語ノ翻譯語ニ非ス然レトモ  
經濟ノ二字ニ學ノ字ヲ附シテ經濟學テフ名辭ヲ造リ以テ英語ノ「ボリチカル、  
エコノミー」ニ當テ嵌メタルハ漸ク三十年前ノコトニ屬ス其ノ以前ニ於テハ  
經濟ヲフ語ノミ存在セリ而シテ是レ通常節儉若クハ儉約ノ意ニ用ヒラレタ  
ルモノナリ

然ルニ儉約節儉ヲ爲スニハ多少一身ノ善ク修マリ一家ノ整頓シ秩序アルヲ要  
スルコトナレハ此語ハ自然事物ノ秩序ト云フ意味ヲモ含ム例ヘハ彼ハ經濟家  
ナリ此ハ經濟主義ナリ宇宙萬物自ラ一定ノ經濟法アリナト、曰フ場合ニ於テ  
此等ノ意義經濟ノ二字ニ含マル、カ如シ

註 通俗ニ用フル所ノ經濟ヲフ語ハ節儉儉約等ノ意ナリ然ルニ所謂節儉儉  
約ノ實際行ハル、ニハ一身ノ修マリ一家ノ整頓スルヲ要ス一身放埒一家紊  
亂ナラハ決シテ節儉儉約ヲ語タルヘカラス故ニ節儉儉約ノ中ニハ自ラ事物  
ノ秩序ト云フ意味ヲ包含シ若クハ包含スルニ至レリ

英語ノ「エコノミー」モ亦秩序整頓等ノ意味ヲ含ム又一致、和合等ノ意味ヲモ有ス而シテ此語ノ起源ヲ釋スレハ是ハ希臘語ノ「オイコス」[oikos]「ノモス」[nomos]「ノ」ニ字ヨリ出ツ「オイコス」ハ素ト家ニシテ「ノモス」ハ法則ナリ即チ「エコノミー」ハ「家ノ法則ニシテ家法又ハ一家ノ秩序、整頓ト云フ義ナリ之ヲ主觀的ニ云ヘハ一家ノ法則ニ關スル學問若クハ一家整頓ノ術ヲ指スモノナリ後チ之ニ「ポリチカル」テフ形容詞ヲ冠ラシメ一家ノ上位スル一村、一町、一市、一縣、一國等ノ公共團體ニ適用スルニ至レリ即チ小ヨリ起リテ漸ク大ナルモノニ推シ移サレタルモノナリ

註 洋語ノ「エコノミー」テフ語ハ我カ經濟ノ語ト同シク秩序、節儉、和合、一致等ノ意味ヲ包含ス此語ノ起源ハ歐洲ノ多クノ學問上ノ語又ハ抽象的ノ意味ヲ含ム所ノ語カ希臘羅馬ニ發生スルノ例ニ漏レス希臘語ノ「オイコス」ノ「ノモス」ノ二語カ各人種ノ間ニ傳訛シテ「エコノミー」テフ語ニ變シタルモノナリ此「オイコス」ノ「ノモス」語ノ變化シタルモノ即チ「エコノミー」ナル語ノ今日殆ト歐洲ノ何レノ國ニ於テモ用ヒサル處ナシ唯其訛リニ多少ノ差異アルノミ例ヘハ獨

乙ニテハ「エコノミー」ト曰ヒ伊太利ニテハ「エコノミヤ」ト曰フカ如シ英國ノ如キハ管ニ此語ノ使用セラル、ノミナラス此語以外ニ同一意味ヲ表ハスモノナシ獨乙ニハ他ニ純粹ノ獨乙語ニテ同一意味ヲ言ヒ表ス語ナキニ非スト雖モ最モ普通ニ用ヒラル、語ハ此ノ「オエコノミー」ナリ然ラハ則チ一般ニ「オエコノミー」テフ語ハ如何ナル意味ヲ有スルカト云フニ「オイコス」ハ家ト云フ義ニシテ「ノモス」ハ法則ノ意ナリ即チ「オイコス」ノ「ノモス」ノ二語ハ「家ノ法則」ト云フ義ニ外ナラス之ヲ主觀的ニ言ヘハ「家ニ關スル學問若クハ「家ノ法則」ニ付テノ研究」即チ「家ヲ整頓スル術」ノ意ニ用ヒラレタルモノナリ然ルニ後世之ニ形容詞ヲ附加シテ「ポリチカル」エコノミー」ト曰フニ至リ一家ノ事ノミナラス一國ノ事ニモ用フルニ至レリ然リ而シテ此ノ「ポリチカル」テフ語モ亦希臘語ヨリ出タルモノナリ蓋シ希臘ノ政治上ノ發達ハ他ノ諸國ト異ナリ雅典、スパルタ等ノ市カ一ノ團體ヲ成シ漸ク發達シテ國ナル觀念ヲ生シタルモノナリ故ニ希臘ニテ「ポリチカル」ナル語ハ一市、一府、一村、一落ノ團體事項ニ關シテ用ヒラレタリ而シテ社會ノ進歩發達シテ國ナル團體組織ヲ成スニ至リテ此語ハ復之ニ應

用セラレ遂ニ國家組織ヲ假定スルニ非サレハ經濟現象ナシト云フ觀念ヲ生  
 スルニ至レリ近世社會ノ進歩ニ伴ヒテ各國民間ニ欲望ノ増進ヲ促シ且交通  
 機關ノ發達スルニ隨ヒテ各國交際ノ頻繁ナルヲ來シ互ニ有無相通スルニ至  
 リテ經濟現象ハ世界的ノ實況ヲ呈スルニ至レリ蓋シ現今各國ノ經濟現象ニ  
 シテ多少外國ニ關係セサルモノ殆ト之ナキナリ我國開國以前ニ於テモ經濟  
 的觀念ハ各事業ノ間ニ存セシコト疑ナシト雖モ是レ單ニ一國ニ畫ラルルカ  
 故ニ敢テ外國ヨリ何等ノ影響ヲ受ケザリシナリ金銀相場ノ變動ノ如キモ亦  
 然リ然ルニ嘉永安政ノ頃外國ニテハ金ノ相場ハ銀ニ比シテ騰貴シ居リタル  
 ニ拘ハラヌ我國ニ於テハ毫モ之ヲ知ラザリシカ故ニ利ニ巧ミナル外國人ノ  
 私ニ我國ニ來リテ銀ヲ以テ金ニ換エ去リタルモノ頗ル多ク其額極メテ大  
 ナリ殊ニ安政年間ニ於テ其ノ著シキヲ見ル實ニ遺憾ナリト謂フヘシ然ルニ  
 今ヤ已ニ斯ル有様ヲ距ルコト遠ク所謂經濟現象ニ國境ナシト云フコト事實  
 トナリ經濟現象ハ遂ニ全ク國際的ノモノト爲ルニ至レリ是ヲ以テ今日英國  
 ニ於テ金銀ノ相場ニ變動アレハ即日橫濱ニ於ケル金銀ノ相場ニ變動ヲ起ス

ニ基テ之ヲ課シ毎年五百五十万磅ノ收入アリシト云ヘリ然レトモ此戰爭既ニ  
 止ミアミエンノ條約成リテ後之ヲ全廢シタリ而シテ翌年戰爭ノ再ヒ起ルヤ復  
 タ所得稅ヲ賦課シ其稅率累進ノ割合ハ前日ノ所得稅ト略ホ同一ニシテ唯其最  
 高ノ稅率ヲ百五十磅ニ對シテ五分ト爲シタリ千八百五年ニ至リテ其稅率ヲ增  
 加シ千八百六年「フォクス」内閣ノ時更ニ其稅率ヲ増加シ資本及ヒ土地ヨリ生ス  
 ル收入ハ如何ニ少額ナルモ一割ヲ課シ勞力賃銀ヨリ生スル收入ハ五十磅以下ヲ  
 免稅トシ百五十磅以上ハ一割ヲ課シタリ此所得稅法ハ各收入ヲ區別シテ五項  
 ト爲セリ而シテ其千八百十五年度ノ收額ハ左ノ如シ

項	目	國庫收入額	徵收費
第一項	土地、家屋、掘割、鑛山、鐵業等ヨリ生スル收入	五、九三、四八六	二九七磅
第二項	土地占有ヨリ生スル收入等	二、七三、四五一	二〇四磅
第三項	公共年金及ヒ其他保證ニ對スル配當ヨリ生スル收入	二、八八、五〇五	ナシ
第四項	商工業ノ利益ヨリ生スル收入	三、八三、〇八八	一七、六磅
第五項	俸給恩給等ヨリ生スル收入	一一、七四、四五六	六、七七、八磅

右ノ所得稅モ亦歐洲大陸ノ平和ヲ見ルニ及ヒテ全廢セラレタリ蓋シ政府ハ其一半ヲ存センコトヲ欲シタリシカ遂ニ富者ノ希望ニ因リ議院ハ之ヲ全廢シタリ亦以テ議院ノ所得稅ヲ視ルヤ之ヲ恒久ノモノトセス唯一時國家ノ必要ノ爲メニ協贊シタルモノナルヲ知ルヘシ又「ビール」<sup>ビール</sup>「ヒューム」<sup>ヒューム</sup>「グラットストーン」<sup>グラットストーン</sup>「スタシレー」<sup>スタシレー</sup>等ハ皆所得稅ハ國家己ムヲ得サル必要ノ爲メニ協贊スヘキモノナリト云ヘリ然ルニ千八百五十四年ニ至リテ「グラットストーン」氏ハ輿論ヲ一轉セシメ所得稅ヲ繼續的ノモノトシテ而シテ必要ニ應ジテ増加スヘキモノトレタリ「ノースコート」氏二十年紀其初ハ一磅毎ニ七片ナリシカ翌五十五年ニハ十四片ト爲リ五十六年ニハ十六片五十八年ニハ七片五十九年ニハ五片六十年ニハ九片ト爲リタリ爾後「マカロック」氏ノ說ニ基キ租稅ノ最低額以上ノ所得ニハ課稅スルモ其所得ノ全部ニ課稅スルコトナク其最低額ヲ扣除シタル殘額ニ課稅スルコトニ修正シタリ蓋シ從來ハ最低額ヲ超ユル所得ニハ其全部ニ課稅シタリシカ是頗ル公平ヲ失スルモノナリ何トナレハ其最低額ニ課稅セサルハ之ヲ生活ノ必要費トスルニ因ル然ラハ之ヲ超ユル所得ニ於テモ亦其最低額マテハ之ヲ必

要費ト看做サ、ルヘカラサレハナリ

佛國ニ於テハ所得稅ニ反對スル者多ク財政ノ困難ヲ極ムル時ト雖モ未ダ曾テ所得稅ヲ起シタルコトアラス北米合衆國ニ於テハ所得稅ハ從來之アリ「シニツイ」<sup>シニツイ</sup>國モ亦之ヲ課シ獨逸國ハ千八百七十年始メテ之ヲ課シタリ斯ノ如ク各國共ニ所得稅ヲ課セリト雖モ學者或ハ之ニ反對ヲ試ミ「國家若シ臣民ノ最小ノ不滿ヲ以テ最大ノ收入ヲ得ント欲セハ須ラク所得稅ヲ課スヘカラストマテ極言スル者アリ

### 第三十節 財產稅

規則立テテ毎年復歸スル所ノ租稅ヲ支拂フノ能力ハ結局自由收入ノ大小ニ因ルモノナリ之ト同シク毎年常ニ歸復セスシテ唯一時課セラル、所ノ租稅ヲ支拂フ能力ハ當時處分シ得ヘキ財產ノ多寡ニ因ル者ナリ財產稅ト所得稅トノ根本ノ差異此ニ在テ存ス蓋シ所得稅ノ起原ハ財產稅ニシテ財產稅ノ一變シタルモノナリ故ニ所得稅ハ其初ニ當テハ時々賦課セラレタルモノナリシカ再變シテ繼續稅ト爲リタルナリ故ニ財產稅ヲ最モ古キモノトス近世ニ於テノミナラス

雅典ニ於テモ羅馬ニ於テモ亦之有リ羅馬ニ於テハ之ヲ「トリビュン」ト稱シタリ「トリビュン」トハ戰爭費ノ義ニシテ兵士ノ支持費ニ充テタルヨリ此名アリ近世ニ於テハ第十六世紀ノ頃既ニ各國ニ於テ臨時事アルニ當リテ之ヲ賦課シタリ

外部ヨリ財産額ヲ調査スルハ所得稅ヲ調査スルヨリモ一層困難ニシテ彼ノ申告ノ方法ヲ取ルモ義務者カ實際困難ヲ感スルコト有リ例ヘハ家傳ノ重寶ノ如キハ之ヲ金額ニ見積ルコトヲ得サルナリ故ニ財産稅ヲ課スルトキハ大抵如何程ノ現金ヲ以テ其實物ヲ與フヘキカヲ見テ以テ之カ額ヲ見積リタルコトアリ又所得額ハ平均財産額ノ二十分ノ一ニ當ル者ト假定シ所得額ノ二十倍ヲ以テ財産額ヲ定メタルコト有リ以テ知ル可シ中古ヨリ近世ニ移リ財産ニ關スル統計ハ不充分ニシテ總テ其實際額ヨリ少キコトヲ隨テ其稅率モ一見驚クヘキ程過重ナルモ其實ハ決シテ然ク過重ナルモノニ非ス埃國ノ「ギンドリ」王ノ課シタル財産稅ハ一ヶ月一分ニシテ獨逸ステレチエール王ノ課シタル財産稅モ亦一ヶ月一分ノ重稅ナリキ

今假リニ百歩ヲ讓リテ眞實ノ財産額ヲ知リ得ルモノトスルモ財産稅ヲ以テ單一稅ト爲ストキ又ハ國家非常ノ時ニ際シ他ノ稅制ヲ附加スル單一附加稅ト爲ストキハ左ノ如キ弊害ヲ免カレサルナリ

第一 活動ノ財産ヨリハ静止ノ財産ニ却テ重ク附加スルノ結果ヲ來スヘシ例ヘハ現在港灣ニ碇泊スル船ハ遠洋航行ノ船ヨリモ多ク租稅ヲ課セラレ現ニ使用セサル機械ハ之ヲ使用スル機械ヨリモ重ク租稅ヲ負擔セサルヘカラサルカ如シ又租稅ヲ支拂フ爲メニ租稅目的物其物ノ消費又ハ浪費ヲ促カスニ至ル可シ然レトモ「ワグネル」氏ハ之ニ反對セリ蓋シ財産稅ハ奢侈稅ノ一種ナリトスルニ在リ

第二 最高ノ財産稅ヲ課スルモ租稅負擔力ヲ有スルコト疑ナキモノト雖モ勞力賃銀ニ付テハ全ク之ヲ免カルニ至ルヘシ例ヘハ第一流ノ醫師代言人俳優等ハ如何ニ多額ノ收入アルモ又如何ニ國家事アルニ際シテモ決シテ其負擔ヲ増加スルコトナカルヘシ

第三 其稅率ヲ變更セサル一定ノ財産稅ハ其收穫ノ漸次減少セル土地及ヒ收

益ノ漸次減少セル資本ニ對シテハ比較的ニ過重ナルヘシ  
人ノ勞力ニ對スルカ即チ勞働力ハ疑モナク財産ノ一部ナリ故ニ是亦財産稅ノ  
目的タルコトヲ得ルヤ否ヤ獨逸學者皆之ヲ財産ト認メ財産稅ノ目的物タルコ  
トヲ得ヘシト論セリ

實際上ヨリ之ヲ論スレハ財産稅ノ傍ニ適當ノ所得稅ヲ設ケテ其負擔ノ權衡ヲ  
得セシムルカ又ハ所得稅ト財産稅トヲ併課シ基本アル收入ニハ人的收入ヨリ  
重ク課稅スルノ結果ヲ來スヲ以テ租稅制度ノ其當ヲ得タルモノトスヘシ蓋シ  
勞力ノ收入即チ人的收入ニ免稅ス可キノ理ナシ唯他ノ固定收入ヨリ輕ク負擔  
セシムルヲ可トスルノミ

### 第三十一節 相續稅

財稅ヲ細別スレハ其主クルモノヲ相續稅トス  
相續稅ノ起因ニ付テハ種々ノ說ヲ爲ス者アリテ或ハ相續權ナルモノハ全ク國  
家ノ意思ニ因リテ生シタルモノナルカ故ニ國家固ヨリ一部分ヲ徵收スルノ權  
利アリト論シ或ハ唯國家ノ收入ヲ計ルカ爲メニ課スルニ外ナラスト云ヘリ蓋

シ相續權ノ基本ニ付テハ古來大ニ議論アル所ニシテ「ミル」氏ハ之ヲ國家ノ意思  
ニ基クモノトシ「グ」フケン氏ハ相續ハ人類ノ天性ニ基キ唯其特別ナル規定ヲ法  
律ニ由リテ設ケタルノミト言ヘリ又歴史派ノ學者ハ之ヲ以テ沒收制度ノ漸々  
沿革進化シタルモノト看做セリ而シテ相續稅ハ其初ニ於テハ手数料タルニ過  
キサリシモノナリシカ爾後漸次發達シテ遂ニ租稅ト爲リシナリ

「バザード」氏ハ相續稅ヲ論シテ成ル可ク重ク之ヲ課シテ以テソレ丈ケ貧民ノ負  
擔ヲ輕減ス可シト云ヘリ蓋シ相續ハ元來自然ニ基クモノニ非スシテ國家ノ之  
ヲ認許シタルモノニ過キス故ニ如何ニ過重ノ租稅ヲ課スルモ不可ナシト云フ  
ニ在リ又社會主義ニ近キ經濟家モ亦右ノ如キ極端論ニ近キモノニレテ「ベンザ  
ン」氏ノ說ニ依レハ血統ノ連續セサル相續ノ場合ニハ之レヲ國家ニ收ム可ク又  
血統ノ連續セル者ナルモ其子孫ニ非サレハ單ニ使用權ヲ與フルヲ以テ足レリ  
トシ又遺贈ハ全財産ノ半額ニ限ル可シト云ヒ「ミル」氏ハ遺言相續ノ場合ハ格別  
ナレト遺言ナキ法定相續ノ場合ニハ養育費ト教育費トヲ限リテ子孫ニ遺サシ  
メ爾餘ハ之レヲ國家ニ收ム可シト云ヘリ此等ハ極端ニ相續稅ニ贊成スルモノ



之ニ反スル學者ハ「リカード」氏ヲ宗トス氏ノ説ニ曰ク「相續稅ハ資本ノ構成發達ヲ妨クルモノナリ何トナレハ若シ一割ノ相續稅ヲ課スレハ千圓ノ財產ヲ遺スモ相續人ノ受クル所ハ九百圓ニ過キス故ニ其相續稅トシテ徵收セラル、所ノ百圓ヲ貯蓄スルノ念慮ヲシテ失ハレムルニ至レハナリ」ト

實際相續稅ヲ實行スルトキハ第一ニ相續ヲ爲ス可キ親族ノ遠近ニ因リテ其相續稅率ヲ異ニシ第二ニハ相續人ノ壽命ノ長短ヲ以テ其相續稅率ヲ異ニスルコトヲ要ス今親族ノ遠近ニ關シテ稅率ヲ異ニスル他國ノ例ヲ舉ケレハ英國ニ於テハ尊屬親及ヒ卑屬親ノ相續ニハ一分兄弟姉妹及ヒ其子孫ノ相續ニハ三分伯叔父母及ヒ其子孫ノ相續ニハ五分大伯叔父母及ヒ其子孫ノ相續ニハ六分其他ノ者ノ相續ニハ一割ノ稅ヲ徵收シ配偶者ノ相續ハ免稅トセリ統計ニ依ルニ此相續稅ノ收入中第一類ヨリスル者ハ總收入ノ四分ノ一、第二類ヨリスルモノハ同三分ノ一其他ヨリスルモノ併セテ同三分ノ一ナリト云フ普國ニ於テモ亦相續者ノ親系ノ遠近ニ由テ差別ヲ設ケ其遠キニ隨ヒテ稅率ヲ高クセリ然レトモ英

國ニ於テハ相續人ノ壽命ノ長短ヲ以テ其稅率ヲ異ニセス此壽命ノ長短ヲ以テ差別ヲ設ク可シトノ説ヲ唱ヘタルハ「レオン、ポリュー」氏ニシテ氏ハ親族ノ關係ノ遠近及ヒ相續スル所ノ財產ノ大小ニ因テ稅率ニ差別ヲ設クルコトニハ贊同セス又何レノ場合ニモ其稅率ノ一分以上ニ及フコトヲ是認セス同氏著「財政學第一卷第四百九十六節」然レトモ相續人六十歳以上ナルトキハ三分ノ一、七十歳ナルトキハ二分ノ一、八十歳以上ナルトキハ三分ノ二ヲ免除ス可シト論セリ此説ハ普國ノ千八百七十三年五月三十日ノ相續稅法第二十四條ニ於テ之ヲ斟酌セリ「ラットストーン」氏ハ曾テ「ポリュー」氏ト同一ノ意見ヲ述ヘタルコトアリト雖モ英國ニ於テハ未タ實行セラレサルナリ

又相續稅ニハ適當ナル累進法ヲ適用シ其相續財產ノ多キニ從ヒテ其稅率ヲ增加スルヲ可トスト論スルモノアリ然レトモ未タ其實例アルヲ見ズ英國ノ如キハ却テ遞減法ヲ採用セリ

相續稅ヲ贊成スル者ハ其必要ヲ説テ曰ク「平常節約ヲ旨トシ消費スルコトノ少キ人ハ消費稅ヲ負擔スルコト少ク若クハ全ク之ヲ負擔セス又偶發ノ事件ニ因

ヲ利益ヲ收メ其資産ヲ組成スル者ハ所得稅及ヒ收益稅ヲ負擔セサルモノナリ故ニ相續稅ヲ設ケ以テ曩ニ負擔ノ少ク又ハ全ク之ヲ負擔セザリシ代リニ此等ノ人ヲシテ其死去ニ際シテ多クノ負擔ヲ爲サシメ以テ被此相待テ負擔ノ公平ヲ保ツコトヲ得可シ是レ相續稅ノ必要缺ク可カラサル所以ナリト然レトモ其負擔ノ公平ヲ保ツニハ相續稅ノ賦課ヲ待タス所得稅ノ傍ニ財產稅ヲ設ケルトキハ以テ其目的ヲ達スルコトヲ得加之財產稅ヲ賦課スルトキハ却テ正確ニ其目的ヲ達スルコトヲ得可キナリ「ワグネル」氏曰ク「此目的ヲ達スル爲メニハ財產稅ヲ優レリトス何トナレハ相續稅ハ其負擔ノ生スル時期ヲ豫知ス可カラス又其短命者ノ多キ家族ハ長命者ノ多キ家族ニ比スレハ比較的ニ過重ノ負擔ヲ爲スノ不公平ヲ生スルコトヲ免カレス之ニ加フルニ不幸ナル偶發事件ニ際シ其財產ノ減少ヲ見ルニ際シテ其負擔起リ財產稅ノ如ク多幸ナル場合ニ負擔スルコトナシ從テ相續稅ヨリ生スル義務者ノ苦痛ハ甚タ大ナル可シト然リト雖モ右ニ述ヘタル利益ノ外ニ相續稅ニノミ存スル一ノ利益アリ即チ相續稅ノ存スルトキハ平常所得額及ヒ財產額ヲ詐僞スルノ困難ナルコト是ナリ

相續稅ハ固ヨリ國民ヲシテ相續ノ自由ヲ妨タルモノナリ又ハ其家族ノ親愛ヲ減殺スルモノナリトノ感情ヲ起サシメサルコトヲ要ス故ニ其範圍ノ廣狹等ハ各國人民ノ性質及ヒ時勢ニ於テ異ナル可キモノニシテ決シテ國民ノ感情ヲ害シ社會共產的精神ヲ鼓舞シ勤勉節儉ノ良風ヲシテ薄弱ナラシム可カラズ然レトモ若シ相續稅ノ制其宜シキヲ得ルトキハ二箇ノ利益ヲ生ス即チ其一ハ之ヲ負擔スルコトノ容易ニシテ國庫ノ收入多ク且國民ノ富ノ増加ト共ニ増加スルコト是ナリ是ヲ以テ英佛獨ヲ始メ其他ノ各國ニ於テモ政府ノ財政上ノ必要アルト否トニ拘ハラズ此租稅ヲ起セリ即チ佛國ハ千八百五十年白耳義ハ千八百五十一年英國ハ千八百五十三年獨逸ハ千八百七十三年ニ此租稅ヲ起シタリ唯我國ノミ豈獨リ此租稅ナカル可ケンヤ曩ニハ所得稅ヲ起シタリ將ニ違カラズシテ相續稅ヲ唱フル財政家ヲ見ルニ至ラントス

### 第三十二節 生産力ニ課スル租稅(收益稅)

生産力ニ課スルトハ土地又ハ勞力若クハ資本ノ生産力ニ課スルモノニシテ其土地勞力又ハ資本其物ニ課スルニ非ス此生産力ニ課スル租稅ヲ總稱シテ收益

税ト云フ彼ノ地租ノ如キ其主タルモノトス

此總稱ノ下ニ屬スル各種ノ租稅ニ普通ナル性質アリ左ノ如シ

第一 收益稅ニ屬スルモノハ其實際ノ收益如何ニヨリテ量定セス國家ノ推測スル所ノ平均ノ收益ヲ標準トシテ課稅ス即チ彼ノ地租ノ如キモ如何ナル方法ヲ以テ調査ヲ遂ケテ土地臺帳ヲ作ルモ所得稅又ハ財產稅ノ如ク公平ヲ保ツコト難キモノトス故ニ實際ニ於テ到底不當不平等ヲ免カレス即チ平均收穫以上ニ過度ノ租稅ヲ課セ或ハ收穫以下ニ課稅スルコトアリ是此種ノ租稅ニ免カル可カラサル短所トス然レトモ此短所ニ當ル一ノ長所アリ何ソヤ各負擔者カ此不公平ノ爲メニ出精勉勵シテ其收穫ヲ増加センコトヲ謀ルコト是ナリ蓋シ其租稅額ハ常ニ一定スルヲ以テ其收穫ヲ増加スルニ非サレハ自己ノ不利益ナレハナリ

第二 課稅セラレタル生産力ノ上ニ存スル負債ハ純粹ナル收益稅ニ於テ敢テ之ヲ顧視セス是亦此種ノ租稅ノ特質ナリ蓋シ此種ノ租稅ハ人ニ課スルニ非スシテ直接ニ物ニ課スルモノナレハナリ而シテ此租稅ハ各義務者ハ唯或ル

點マテハ自由ニ各自ノ財產ヲ處分スルコトヲ得ルモノト爲シ其收益ノ一部分ハ元來國家ニ屬ス可キモノトシテ課シタルモノナリ

第三 既ニ久シキ歲月間其稅率ニ變動ナク繼續セル收益稅ハ遂ニ其負擔ヲ感スルコトノ薄弱ナルニ至ルモノナリ此長所ニ代フルニ一ノ短所アリ即チ之ヲ各個人ニ付テ細密ニ調査スルトキハ負擔ノ輕重ヲ免カレス例ヘハ甲乙二箇ノ地所アリ之ヲ登錄スルニ際シ各十萬圓ノ價格ヲ有シ各二百圓ノ地租ヲ負擔ストセンニ甲ノ地所ヲ有スル者ハ農事ニ熟練ナルカ爲メニ毎年六千圓ノ收穫アリテ負擔ハ全ク之ナシ然ルニ乙ノ地所ヲ有スル者ハ農事ニ不熟練ナルカ爲メニ毎年二千圓ノ收穫ヲ得ルニ止マリ加フルニ負債アリテ其收穫中千五百圓ヲ負債ヲ償却ニ充ツルモノトセハ收益稅ハ其實際ノ收穫ヲ調査セス又負債ヲ顧ミサルヲ以テ輕重ノ差ナキ能ハス今假ニ其租稅ヲ二倍トナサハ甲ハ十五分ノ一乙ハ十五分ノ十二ノ負債ヲ爲スモノニシテ乙ハ甲ニ對シテ十二倍ノ負擔ヲ爲スニ均シキモノナリ

第四 此種ノ租稅負擔ニ堪ユ可キモノナルヤ否ヤヲ判斷スルニハ最モ弱キ分

子ノカヲ標準トシテ定ム可ク其稅率ハ國民一般ノ納稅力ニ依ル可カラサルナリ彼ノ累進法ハ此收益稅ニ適用セサルヲ原則トシ之ヲ適用スルモノハ除外例トス

### 第三十三節 地租

租稅制度未タ發達セザリシ往時ニ在テハ財産稅ト云ヒ所得稅ト云ヒ之ヲ課スルニハ主トシテ土地ヲ目的トシテ土地ヨリ之ヲ徵收シタルナリ蓋シ當時勞力資本等ハ未タ十分發達セズ唯土地ノミ獨リ經濟社會ニ優等ナル地位ヲ有シタルヲ以テ土地ハ常ニ租稅ノ目的物タリシナリ然ルニ後收益稅ナルモノ、財産稅及所得稅ヨリ分離シテ獨立スルニ至リシモ土地ハ第一ニ收益稅ノ目的ト爲リタリ今日ニ於テモ亦大抵ノ國ニ於テハ地租ハ直接稅中最要ノ地位ヲ占ムルモノトス

ラウ氏ノ財政學第二卷第三百一節ニ記スル所ニ依レハ千八百六十五年ニ於ケル各國ノ地租カ租稅總額中ニ占ムル割合左ノ如シ

租稅總額ニ對スル割合 直接總額ニ對スル割合

西班牙	四〇	七六
バイエルン	二九	六九
埃地	二八	四四
ブルランブルグ	二五	五七
普魯	一八	三八
バーデン	一六	四五
又ラウ氏ノ千八百八十一年ニ於ケル統計ニ依レハ其直接稅總額ニ對スル割合ハ左ノ如シト云ヘリ		
佛蘭		四六六
普魯		二七四
バイエルン		五一三
埃地		三九二
匈牙利		四七五
白魯		五一二

北米合衆國ノ各聯邦ニ於テモ亦地租ヲ主タル租税トス「マサチューセツツ」州ニ於テハ地租ハ總租税ノ八割八分ニ當リ「ブルモンズ」州ニ於テハ七割三分「コンチチカ」州ニ於テハ六割オハイオ州ニ於テハ五割ニ當ルト云フ又大抵ノ國ニ於テハ地租ノ税率ハ他ノ税率ニ比シ重キヲ例トス

斯ノ如ク地租ヲ各租税中ノ主タルモノト爲スハ畢竟歴史上ノ理由ニ基クモノニシテ即チ經濟ノ未タ發達セサル時ニ當リテハ土地カ最要ノ地位ヲ占メタルニ因ルモノニシテ且土地ハ隱蔽ノ困難ナルヲ以テ之ニ課税スルハ最も容易ナレハナリ而シテ茲ニ一ノ注意ス可キ者アリ即チ地租ノ過重ナル國ニ於テハ其資本ヲシテ農業以外ニ奔出セシムルニ至リタルコト是ナリ曼チョーデン民ノ孤立國論ニ於テ詳論セル所ナリ英國ニ於テ「ウイリヤム」第三世ノ時ニ於テハ地租ハ總テノ歳入ノ五分ノ二ニ當リシカ「ジョージ」第二世ノ時ニハ六分ノ二ニ減シ「ジョージ」第三世ノ時ニハ七分ノ一ト爲リ千七百八十年ノ頃ニハ八分ノ一ト爲リ更ニ降テ千八百四十二年ニハ二十四分ノ一ニ減セリ是大ニ注意ス可キ事實ニシテ地租ノ格外ニ重キトキハ此ノ如ク漸次減少スルニ至ルモノナリ今日英國ニ於

テ商工業ノ盛大ナルニ反シテ農業ハ獨リ萎靡不振ナルハ蓋シ地租ノ過重ナリシモ亦其一大原因タリシニ相違ナカル可シ

善良ナル地租登録ハ難事中之至難ナルモノニシテ開明ノ度高ク經濟思想ノ發達シタル國民ニ於テ始メテ期ス可キモノトス彼ノ勞力ノ賃銀資本ノ利子等ヲ引去リ其殘ル所ノ純收獲ヲ算定スルカ如キハ經濟ノ統計ノ智識ニ富ミタル國民ニシテ始メテ之ヲ爲シ得可ク未タ經濟ノ學統計ノ術タモ知ラサル國民ニ之ヲ望ムハ無理ト謂ハサルヲ得ス

地租其宜シキヲ得ント欲セハ先ツ首トシテ土地ノ測量及ヒ地圖ノ調製ヲ爲サハル可カラス而シテ此事タル莫大ノ費用ヲ要スルヲ以テ各國此事ヲ完了セルハ近時ノ事ニシテ彼ノ伊太利國ノ如キハ今日尙ホ未タ二百ヘクタ「ハ」地租ノ地圖ヲ調製スルニ至ラス西班牙ハ全國ノ四割三分ハ未タ全ク其調査ニ着手セラレスト云フ而シテ土地ノ測量及ヒ地圖ノ調製ハ單ニ地租賦課目的ノ爲メノミナラス尙ホ其他ニ軍事上行政上又ハ交通上ニ利益スルコト少シトセス故ニ之ヲ爲スニ當リテモ或ハ陸軍々人ノ閑散ナル者ヲシテ補助セシムルカ如ク須ク

他ヨリ之ヲ補スヘク唯財政上ノ事件ノミトシア之ヲ爲ス可キ者ニ非サルナリ又土地ノ經濟的性質ヲ調査スルニハ左ニ掲クル所ノ四種ノ方法ヲ區別スルコトヲ得可シ而シテ此事タル地租稅率ノ高キニ從ヒ益々之ヲ慎重ニスル事ヲ要シ耕作ノ程度ノ烈シキニ從ヒ愈々困難ヲ加フルモノトス

第一 總收穫ヲ調査スル方法 此方法ハ最も單純ニシテ又最も粗畧不十分ナルモノトス蓋シ總收穫ノ多少ニ從ヒ租稅ヲ高低スルニ在リ其方法ノ不十分ナル所以ハ耕作ノ劇度如何ニ因リテ總收穫中純收穫ノ占ムル所ノ比例大ニ異ナリ又土地ノ豊饒ナルト否トニ因リ總收穫中純收穫ノ占ムル度ニ大ニ等差アレハナリ

「ラウ」氏ノ「財政學」(第三百二十七節)ニ曰ク「最も蕪瘠ナル土地ニ於テハ生産費用ハ總收穫ノ八割乃至五分ニ當ル然ルニ豊饒ナル土地ニ於テハ最も多キモ六割ニ過キス果シテ然ラハ其生産費ニ二割乃至二割五分ノ等差アリ然ルニ總收穫ヲ以テ同率ノ地租ヲ課スルハ不當ト謂ハサル可カラスト」

第二 土地ノ平均賣價ヲ標準トシテ計算スル方法 此方法ハ土地賣買ノ頻繁

ニシテ而モ其賣買取引アル毎ニ之ヲ政府ノ帳簿ニ登錄スル場合ニアラザレハ實際適用スルコトヲ得ス何トナレハ賣買頻繁ナルニ非ザレハ其賣價ヲ知ル可カラズ又之ヲ登錄セザレハ其平均ヲ知ル可カラサルナリ北米合衆國ノ各洲ニ於テハ多クハ此方法ヲ採リ同一ノ土地ニシテ賣價同一ナラザレハ其平均ヲ見テ以テ地租ノ標準ト爲スコトトセリ即チナツソ一洲ハ過去十年間ノ賣價ヲ平均スルモノトセリ而シテ此方法ノ當否ヲ按スルニ實際其當時ノ事情ノ爲メニ多少ノ影響ヲ被ムラスシテ純粹ナル賣價ヲ以テ取引スルコトハ殆ント絶無ニシテ所謂事情ニハ人的ナルモノアリ即チ買手カ其土地ヲ熱望セルニ乘リテ之ヲ高ク賣ルコトアル可ク又賣手カ或ル事故ニ切迫セラレ又ハ取引ノ拙ナルカ爲メニ廉價ニ賣ルコトアル可シ又或ハ戰爭又ハ移住者ノ増加シタルカ爲メニ土地ノ需要者ヲ減シテ爲メニ格外ニ廉價ナルコトアリ其他當時ノ貨幣ノ相場及ヒ利子ノ割合モ亦土地ノ賣價ニ大ナル影響ヲ及ホスモノナリト又小土地ハ大土地ニ比シテ割合ニ高價ナルヲ以テ其土地ノ區別如何モ亦願ミサルヲ得ス是ヲ以テ土地ノ賣價ヲ標準ト爲ス方法モ未ダ十

分ナリト云フ可カラス

### 第三 借地料ヲ標準トスル方法

英國ノ如ク其國土ノ殆ント全部カ少數者ノ所有ニ歸シ大抵ノ農夫ハ皆之ヲ借リテ耕作セル國ニ於テ此方法ヲ採用スルコトヲ得可シ蓋シ借地料ハ其地ノ純收獲ヲ標準トシテ多年ノ經驗ヲ以テ自ラ定マリタル者ナレハ較、地租ノ標準ト爲スニ足ル可シ然レトモ土地ノ需要者ト地主トノ關係及其競争ニ因リ借地料ヲ必スシモ純收獲ニ相當スル者ト云フ可ラス、ヤング氏ノ經濟論及ヒ主農學派ノ經濟書ハ多クハ此方法ヲ贊成セリ此方法ヲ採用スルトキハ其借地料ヲ收獲物ヲ以テ支拂フ場合ニモ貨幣ヲ以テ之ヲ計算セサル可カラス又借地者ト地主ト共謀シテ隱蔽詐欺ヲ爲ストキハ科スルニ嚴刑ヲ以テ之ヲ豫防セサル可カラス

### 第四 純收獲ヲ直接ニ探求調査スル方法

此方法ハ先ツ第一ニ其土地ノ平均純收獲ヲ調査シ其中ヨリ平均生産費ヲ控除シ其殘額ヲ當時市場ノ平均相場ヲ以テ算當スルニ在リ千八百六十一年普魯西ノ地租改正ニ當リテ此方法ヲ實施シタリ當時明カニ法律ニ規定シテ曰ク土地ニ投入セラレタル資本ニ對

スル利子ハ之ヲ生産費用ト看做サスト是大ニ注意ス可キ所ナリ又當時千八百三十七年以來六十年ニ至ル迄ノ平均市價ヲ以テ標準ト爲シ而シテ最高二年ト最低二年トヲ除キタリ是亦宜シク注意スヘキ點ナリ又埃地利ニ於テ千八百二十四年ニ地租改正ヲ行ヒタルトキ當時市價ノ最低ノモノヲ除去セザリシカ爲メニ害毒ヲ他日ニ貽スニ至リタリト云ヘリ

此算當ヲ爲スニ當リテハ土地其物ノ外ニ土地ト市場トノ遠近又ハ住屋ト耕作地トノ距離ヲモ斟酌セサルヲ得ス又各地方ノ普通ノ賃銀ノ割合利息ノ歩合及ヒ普通職業ノ種類利益ヲモ察セサル可カラス然レトモ耕作者ノ巧拙如何ハ之ヲ問フコトヲ要セサルナリ

## 第三十四節 地租登錄及ヒ地價修正

前節ニ於テ説明シタル第二第三第四ノ計算方法ハ各土地ニ付テ別個ニ之ヲ爲ス方法ト或ル摸範土地トモ稱ス可キモノヲ定メ其階級ヲ分ツ方法トノニアリ普國ノ地租改正ニ際シ土地ヲ八級ニ分類シタルシカ當時地租ニ付テ最モ有名ナル「モアク」氏之ヲ評シテ曰ク若シ其摸範タル土地ノ調査ニ誤アルトキハ之ト同

級ノ土地ニ誤ラ及ホスモノナリト此調査ニ從事スル所ノ吏員ノ組織ニハ主トシテ左ノ三項ノ注意ヲ要ス

第一 國內全土ヲ通シテ及フ可キタケ負擔ノ均一ヲ保ツカ爲メニ國家ノ統

一的眼腔ヲ以テ之ヲ監督スルコト

第二 各地方ノ事情ニ熟達セル地主又ハ農業家ヲ土地調査及ヒ分類ニ參與

セシムルコト而シテ地方自治機關ノ參同ヲ得ルコトハ最モ希望スヘキコトナリ

第三 義務者ニハ訴願等ニ十分ナル機會ヲ與フ可キコト

普國ノ例ヲ舉ケンニ地價調査ノ吏員ハ中央委員ト地方委員トノ二種ニ分チ中央委員ハ大藏大臣ノ監督ノ下ニ立チテ各二縣ニ四人ノ主査ヲ置キ其半數ハ大藏大臣之ヲ任命シ他ノ一半ハ各府縣ヨリ選出セル下院ノ代議士ト上院ノ議員トヲ以テ之ヲ組織シタリ又地方委員ハ各縣ニ於テ半ハ府縣會ヨリ選舉セラレタル者半ハ大藏大臣ノ任命セル者ヲ以テ之ヲ組織ス又各郡ニ委員ヲ置キ其半ハ府縣委員ノ薦告ニヨリ大藏大臣ノ指名シタル者其半ハ郡會議員ノ選舉シタ

ル者ヲ以テ組織セリ

佛國ニ於テハ宣誓セル近縣ノ地主及土着ノ老農ノ協同シテ計算スル所ヲ以テ之ヲ調査セリ

一 國殊ニ大國ニ於テ全土ヲ舉テ十分ナル調査ヲ爲スニハ非常ニ巨額ナル費用及時日ヲ要スルヲ以テ之ニ應スルニ足ル可キ財政上ノ餘裕アルヤ否ヤハ頗ル疑ヲ措ク可キ問題ナリ將ニ最後ニ着手セル土地ノ調査ヲ終ラントスルニ當リテハ既ニ其調査ヲ終了セシ土地ノ狀況ノ變遷セルカ如キコト往々ニシテ之アリ而シテ若シ時ニ巨額ノ費用ヲ抛チ多額ノ手當ヲ支出スルコトヲ許スニ於テハ或ハ多人數ノ聚合力ヲ以テ其事業ノ迅速ニ進捗スルコトヲ得ヘント雖モ此ノ如キ巨額ノ費用ヲ一時ニ抛ツコトハ到底今日ノ財政上之ヲ許ス能ハサルヲ如何セン費用ヲ節スレハ則チ速ニ事業ヲ成スコト能ハス速ニ事業ヲ成サントセハ則チ其費用ニ吝ナルコト能ハス兩者ノ目的ヲ同時ニ達スルコト頗ル困難ナリトス彼ノメーランドア地價修正ハ千七百十八年ヲ以テ之ヲ議決シ翌十九年ニ着手シ二十一年乃至二十三年ニ土地測量ニ終リ二十六年ニ地價ノ計算ヲ



終リ三十二年ニ總テノ爭議ヲ決シ實際之ヲ施行セシハ千七百六十年ニシテ前  
 後通計四十八年ヲ要シタリト云フ又ナボレオン<sup>第一</sup>世カ人民ノ興望ヲ博セシ  
 カ爲メニ地價修正ヲ試ミルヤ毎年二百八十四キロメートル<sup>一</sup>終リ千八百七年  
 ヲリ着手シ千八百十六年ニ至リテ纔カニ全國ノ四分ノ一ヲ終リ千八百五十年  
 ニ至リテ始メテ終局シタリ又伊太利ハ千八百五十九年ニ地價修正ニ着手セシ  
 モ今日尙未タ之ヲ終局セス該國ニ於テハ千八百八十六年ノ法律發布ノ當時地  
 租ノ不公平ハ其極ニ達シ收獲ノ纔カニ一割七分ニ當ル地租ヲ納ムル者アレハ  
 又其七割九分ニ當ル地租ヲ收ムルモノアリシト云ヘリ  
 「シ、リー高ニ一筆ノ地所アリテ兄弟二人其正半<sup>シ</sup>、之ヲ所有シタリシカ兄ハ  
 百二十<sup>リ</sup>」<sup>リ</sup>」ノ地租ヲ納メ弟ハ三十<sup>リ</sup>」<sup>リ</sup>」ヲ納メタリト云フカ如キ其一例ニシテ  
 地租ノ不公平ナリシコト推シテ知ル可キナリ此ノ如キ實際ニ徴スルモ地租ノ  
 調査ニ長日月ヲ要スルコト明カニシテ爲メニ既ニ調査シタル所ノ土地モ其後  
 狀況ノ變遷スルニ至ルノ恐アリ故ニ最初調査シタル地所ヲ後ニ再調査ヲ爲シ  
 得ルコトヲ得セシムルヲ要ス伊太利ノ地價修正ニ際シ「ミンヂチ」ナル人ハ之ヲ

三段ニ分タンコトヲ主張セリ即チ其第一段ニハ各自體內ノ均一ヲ保チ第二段  
 ニハ一府縣内各自治體ヲシテ均一ナラシメ第三段ニ底リテ全國各府縣間ノ均  
 一ヲ計ルニ在リ然レトモ此方策ハ採用セラレザリシナリ  
 其物自身ニ付テ論スルトキハ相當ニ完全ナル地租登錄ト雖モ亦速カニ變動ス  
 ルモノナリ殊ニ現時ノ如ク交通方法ノ變動迅速ニシテ且多キ場合ニ於テハ最  
 モ其變動ノ頻繁ナルモノナリ故ニ若シ土地臺帳ヲシテ土地ノ實況ヲ反映セン  
 メントセハ屢々之ヲ改正セザル可カラズ「ボリユ」氏ハ十年毎ニ一タヒ改正ス  
 ルコトヲ要スト云ヒ埃國ニ於テハ實際十年毎ニ之レヲ改正スル規則ナリシ又  
 「チツケル」氏ハ每二十年ニ一回改正ス可シト論セリ千八百五十年ノ佛國法律ニ  
 依レハ各自治體ハ中央會議<sup>コ</sup>ンセ<sup>イ</sup>ニユ<sup>セ</sup>テラ<sup>ル</sup>ノ認可ヲ得テ何時ニテモ自費  
 ヲ以テ其改正ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ  
 「ボリユ」氏ニ反對スル説ニ二アリ<sup>第一</sup>靜止的ノ地租ハ地主ノ負擔ニシテ負擔  
 ニ非ラス其他地租額ヲ資本ニ課シタルタケ地價ヲ減スルヲ以テ最初其地租ヲ  
 課セラレタル地主ノ外ハ之ニ次キテ或ハ之ヲ買求メ或ハ相續配當トシテ之ヲ

受取りタル者ハ地價ニ於テ其額ヲ減シテ計算セルヲ以テ會テ地租ヲ負擔スルコトナシ是實ニ土地ノ負擔ニ止マリ決シテ資本ニ移轉セサルモノナリトノ推測ニ基キタル說ニシテ此推測未タ確定セサルヲ以上ハ此說モ亦未タ速カニ信ヲ置クコトヲ得ス況ヤ既ニ通論ニ於テ述ヘタル如ク地租ハ必スシモ移轉スルモノニ非スト斷言スルコト能ハサルニ於テヲヤ(第二)一定不變ノ地租ハ其不動ナルカ故ニ收穫ヲ増加スル毎ニ輕減スルト同一ナルヲ以テ大ニ土地ノ改良ヲ獎勵スルモノナリ彼ノ(ヤング)氏ノ如キハ其經濟數學「千七百七十四年刊行」ニ於テ論シテ曰ク「千六百九十二年以來地租ノ一定不變ナルハ即チ英國農業ノ隆盛ヲ致シタル最大原因ナリ」下此言ノ中ニハ多少ノ真理ノ存スルモノアルヲ見ル然リト雖モ此說ハ甚タシク租稅ノ公議ニ反スルモノナルヲ奈何セン若シ此言ノ如クナルニ於テハ如何ナル大資本家ト雖モ總テ租稅ヲ負擔セスト云フニ同シク若シ資本家カ其資本ヲ既ニ地租ノ確定シタル後ニ土地買收ニ用井ルニ於テハ何等ノ租稅ヲモ負擔セサルニ至ル可シ是豈租稅ノ正理ニ於テ許ス可キ事ナランヤ又收穫増加ノ爲メニ地租ノ輕減ヲ見ル場合ニ於テモ其收穫ノ増加ニ

シテ地主ノ勞ニ基キタルトキハ尙ホ恕ス可シ若シ其收穫ノ増加ニシテ社會ノ開明ニ伴ヒタルトキハ不公平モ亦甚タシト謂ハサル可カラズ他ノ地主ノ受クル地代ナルモノハ土地改良ニ因テノミ増加スルモノニアラス或ハ人口ノ増殖ニ從ヒ土地ニ對スル需要ノ増加其供給ノ増加ヨリモ速ナルカ爲メニモ亦其騰貴ヲ見ル是即チ獨リ彼ノ急劇極端ナル社會主義ノ論者ノミナラス若實溫和ナル慨世家モ亦共ニ土地私有制度ニ伴フ所ノ一大弊害ナリト叫ンテ止マサル所以ナリ今日ノ地主ハ其土地ヲ買求メタルトキ又ハ之ヲ相續シタルトキ其地代ノ騰貴ニ對スル見込高モ共ニ計算シ之ヲ支拂ハタルモノト認メサル可カラズ獨リ其騰貴ノ偶然ニ起リテ最初ノ見込ヨリモ速カニ且ツ劇シク生シタルトキ例ヘハ鐵道ノ開通鑛山ノ開掘セラレタルカ如ク地主ノ勞ナクシテ其地代ノ騰貴セルトキハ其課稅ノ率ヲ最高クシテ可ナリ此趣旨ニヨリテ爲シタル地價修正ハ眞ノ修正ニシテ土地改良ヲ妨グルノ憂ヲ懷クコトヲ要セサルナリ

故ニ時々普通ノ經濟思想ニ富ミ且各地方ノ事情ニ通曉セル吏員ヲシテ各地方

ヲ巡廻セシメ前ニ述ヘタル所ノ精神ヲ以テ地價修正ヲ發議セシムルニ於テハ或ハ吾人ノ目的ヲ達スルコトヲ得可キカ若シ一朝地租ノ稅率ヲ高メント欲セハ尙且此ノ如キ地價修正ヲ必要トス何トナレハ若シ然セサレハ益以テ其不公平ヲ甚タシカラシムルニ至レハナリ又或ハ市町村等ノ自治體ノ内部ニ於テ自治機關ニ依リテ絶エス地價修正ヲ發議セシムルコトヲ得ルナリ然レトモ之ヲ爲スニハ完全ナル自治機關ト健全ナル共同ノ精神トノ發達ヲ俟タサレハ能ハス且ツ國家ノ公平ナル權力ヲ以テ之ヲ監督シ彼我ノ公平ヲ保ツコトヲ要スルナリ

### 第三十五節 勞力ニ課スル直接稅

勞力ニ課スル租稅ノ最モ初ニ起リ且最モ單純ナルモノヲ人頭稅トス此租稅ハ人頭ニ課スルモノナレトモ小兒ニハ之ヲ課スルコトナキヲ通例トス英國ニ於テハ十五歳普國ニ於テハ十二歳後ニ之ヲ改メテ十六歳トセリヨリ課稅シタリ人的勞力ニ課スル租稅ノ最モ粗笨ナルヲ人頭稅トス蓋シ人頭稅ヲ課スル所以ハ人荷モ一國內ニ居住スル以上ハ多少國家ノ保護ヲ受クルヲ以テ之ニ酬フル

爲メ多少ノ納稅ノ義務ヲ盡サ、ル可カラストノ單純ナル考案ニ基キタルモノニシテ此租稅ハ社會未タ發達セズ貧富ノ懸隔未タ甚クシカラス財產較々平均シ且ツ富度ノ低キ時ニ當リテハ最モ適當ナルヲ認ム蓋シ其人員ノ總數ヲ知ルヲ以テ足レリトスレハナリ是此租稅ノ早タ起リタル所以ナリ然ルニ人口ニ甚タシキ増減異同ヲ生スル場合即チ都會等ニ於テ其課稅ハ漸ク困難ヲ加フルヲ以テ一般ニ人頭稅ヲ徵收スルニ代フルニ生活需要品ノ消費稅ノ形式ヲ以テ之ニ課稅スルニ至レリ是ニ於テ稅制上既ニ一段ノ進歩ヲ顯ハシタリ然レトモ生活ノ必需品ニ課稅スルニ於テハ貧弱ナル者及ヒ幼少ナル者ヲシテ租稅以外ニ脱出セシムルコトヲ得ス若クハ脱出セシムルコトノ困難ナルハ唯一ノ缺點ナリシナリ人頭稅ノ平等ノ要素ハ決シテ共和の要素ヲ含蓄スルモノニ非ス蓋シ專制君主國ト雖モ君主ノ其臣下ヲ視ルヤ隸屬トシテ平等ニ之ニ臨ムモノナレハナリ開明ノ程度ノ既ニ高キ國ニ於テ徵收スル人頭稅ハ半開國ニ於ケル人頭稅ト同シカラス即チ低率ノ人頭稅ヲ平等ニ賦課セリ其意蓋シ富者ハ既ニ他ノ租稅ヲ以テ十分ニ其義務ヲ盡セリ故ニ貧者ヲシテ亦多少ノ負擔ヲ爲シテ國家

ニ對スル義務ヲ盡サシメサル可カラス殊ニ下等ノ人民ニシテ土地ヲ所有スル  
コトナク又資本ヲ有スルコトナクシテ而モ生活必需品ニ課セラレタル間接稅  
ヲ負擔セサル者ヲシテ此租稅ニ由リ國家ニ應分ノ義務ヲ盡サシムルハ毫モ公  
平ノ主義ニ反スルモノニ非スト云フニ在リ

佛國ニ於テハ千七百九十一年以來動產又ハ不動産ヲ有シ若クハ賃銀ヲ獲得セ  
ル總テノ男女ヲシテ一年ニ三日間ノ勞力賃銀ニ相當スル負擔ヲ爲サシメ而シ  
テ生活ノ富裕ナル者ハ之ニ加フルニ其住家ヲ標準トシテ計リタル所得稅奴婢  
乘馬及車馬等ヲ標準トシテ計リタル奢侈稅ヲ負擔スルモノトセリ其賃銀ノ額  
ハ中央會議(コンセイユ、ゼネラル)ニ於テ定メラレ各州ニ於テ異ナリト雖モ〇、  
五〇フラン)ヨリ低カラス一五〇フラン)ヨリ高カラサルナリ又地地利ニ於テハ  
千八百二年ヨリ千八百三十年ニ至ルマテ十五歲以上ノ人民ハ毎年三十クロン)  
ノ人頭稅ヲ負擔セサル可カラストシ北米合衆國ニ於テハ代議士選舉權ノ一要  
件トシテ毎年二弗ノ人頭稅ヲ納ムルコトヲ要スルモノトセリ又ボストン)府ノ  
人口二十五萬七百人ニシテ内人頭稅ヲ負擔セル者五萬二千二百四十二人同國

ニ於テハ二十歲以上ニ課稅スルモノトセリト云フ  
佛國主農學派ノ泰斗ツルボ)氏ハ人頭稅ヲ非難シテ曰ク人頭稅ヲ逋脫スル者  
ハ比較的ニ貧民ニ多カル可ク從テ租稅刑法ニ違反スル者亦比較的ニ貧民ニ多  
カル可シ故ニ其結果此租稅ハ貧民ニ重キモノト爲ル可シト有名ナル獨逸ノ社  
會學者セ)フ)氏ハ奧國政府ノ人頭稅徵收ヲ辨護シテ曰ク此ノ如ク容易ニ  
毎年六七萬フロ)ン)ノ收入ヲ國庫ニ來ス所ノ租稅ハ決シテ容易ク之ヲ廢ス可  
カラス若シ之ヲ廢スレハ之ニ代フルモノハ消費稅ナラサル可カラス是決シテ  
容易ノ事ニ非ス)下

第三十六節 階級稅

人文ノ進化國費ノ増加ニ伴フテ人頭稅ハ漸次所得稅ニ近似スルノ傾向アリ)ス  
タイン)氏ノ說ニ依レハ千六百二十年ブランデンブルク)州ニ於テ從來各臣民ニ  
平等ニ課シタル人頭稅ヲ改メテ結婚セル貴族ニハ二ターレル)未婚ノ貴族ニハ  
六ターレル)僧侶ニハ四ターレル)ヲ課シタリシカ是即チ純粹ノ人頭稅ヲ去テ多  
少所得稅ニ近接シタルモノニシテ社會上ノ生活ノ有様ニ由リ階級ヲ立テ、課

スルヲ階級税ト云フ然レトモ未タ所得税ニアラス蓋シ其賦課ノ方法未タ所得税ノ如ク完全ナラス從テ其税率ヲ高クセサレハ國庫ノ收入ニ於テ益スルコト少シト「スボリー」氏ハ熱心ニ階級税ニ反對セリ是蓋シ階級ノ分類ハ非常ニ專制的ノモノニシテ其結果不公平タルヲ免カル可カラサレハナリ夫レ然リ階級税ニ於テハ(第一)其税率ヲ高クセサル可カラス(第二)其階級ノ分類ハ精確ナラス(第三)階級税ハ移轉ス可カラス從テ人ヲシテ過重ヲ感セシムルモノナリ然レトモ露西亞、土耳其獨逸ニ於テハ今日尙此税ヲ課セリ即チ土耳其ハ之ヲ分テ三級トシ第一級ニハ「チユカー」第二級ニハ「ニヂユカー」第三級ニハ「四ヂユカー」ヲ課シ露國ハ中央政府ヨリ分配シ其人口ニ應シテ市町村ニ之ヲ分課シ其市町村ハ連帶ノ責任ヲ以テ之ヲ負擔ス可キモノトセリ又普魯西ニ於テハ千八百十一年ニ人頭税ヲ制定シ之ヲ四級ニ分チタリシカ千八百五十一年ニ至リテ所得税ヲ起シ之ヲ財産アル者ニ課シ所得税ヲ負擔セサル者ヲシテ階級税ヲ負擔セシメタリ人頭ノ生活上必ス起ル可キ事實即チ出產死亡及ヒ通常多クノ場合ニ於テ起ル可キ事實即チ婚姻ニ階級税ノ方法ヲ以テ課税スルモノアリ即チ英國ニ於テハ

千六百五十五年ノ頃出產結婚及死亡等ニ課ス可キ租税ハ其人ノ地位ニ由リ及ヒ家長又ハ嫡子ナルト否トニ由リテ之カ階級ヲ分チ家長ノ結婚ハ公爵及ヒ伯爵ニハ五十磅二志六片侯爵ハ四十磅二志六片男爵ニハ十五磅二志ヲ課シ又毎年五十磅以上ノ所得アル者ニハ十二志五十磅未満ノ所得アル者ニハ二志ヲ課セリ

官吏ニ課税スルコト即チ俸給税ヲ課スルコトハ千七百五十五年頃ユスチー氏始メテ之ヲ唱道シ「ゼーゲル」氏ハ千八百十一年出版ノ著書ニテ之ヲ攻撃シ「クロンケー」氏ハ千八百十九年ニ正當ナル租税ノ原素ト題スル一書ヲ著シ俸給税ノ事ヲ論セリ之ヲ主張スル者ハ曰ク「國家非常ナル需要アルニ當リテハ官吏ト雖モ必ス其ニ之ヲ負擔セサル可カラス」ト又之ニ反對スル者ノ説ニ曰ク「一方ニ於テ俸給ヲ與ヘ一方ニ於テ之ニ課税スルハ右ニ與ヘテ左ニ奪フモノニシテ即チ人ヲ欺クモノナリ若シ公債證書ヲ有スル者ニ與フル利子ニ課税センカ利子ハ公債證書ヲ有スル者之ヲ國家ニ對シテ請求スルノ權アルモノナリ然ルニ一方ニ於テ拂ヒ一方ニ於テ租税トシテ之ヲ取立ツルトキハ即チ負擔ニ對シテ利子

ヲ拂ハサルモノナリ俸給税モ亦之ト異ナラストツアカリヤ氏ノ説又之ヲ贊成スル者ハ之ヲ反駁シテ曰ク官吏トシテハ俸給ヲ受タルモノナレトモ俸給税ハ官吏トシテ之ニ課スルニ非ス臣民トシテ之ヲ納メシムルモノナリト獨逸ノ「モルトケ」將軍モ亦千八百四十六年一書ヲ著シ俸給税ヲ論シテ曰ク「俸給税ハ勞力ニ課スルモノナリ」ト

官吏ニシテ君主ニ對スル臣僕ノ性質ヲ帶フルニ於テハ俸給税ナルモノハ其根本ニ於テ一旦與ヘタル物ヲ取戻スノ嫌ヲ免カレス然レトモ今日官吏ハ國家ノ吏員ニシテ昔日ノ如キ臣僕ノ性質ヲ有スルモノニ非ス若シ今日ト雖モ尙ホ臣僕ノ性質ヲ有スルモノトセハ家長カ其奴婢ヲシテ一旦與ヘタル給金中ヨリ家費ノ幾分ヲ補助セシムルカ爲メニ其一部分ヲ取戻スニ異ナラス是決シテ正當ナル事ニアラス故ニ今日俸給税ノ可否ヲ論スルハ畢竟官吏カ君主ノ臣僕ナルヤ否ヤノ問題ニ歸着ス可シ而シテ彼ノ國家ノ官吏ノ人格ヲ二種ニ區別シ俸給ハ官吏ナル人格ヲ以テ之ヲ受ケ租税ハ臣民ナル人格ヲ以テ之ヲ負擔スルモノナリト謂フモ亦一理ナキニ非サルナリ

「ポーデン」國ノ俸給税ハ千「フロリン」毎ニ二「フロリン」三「クローイテ」五「フロリン」以上ハ千「フロリン」毎ニ一「クローイテ」五「フロリン」ヲ累加セリ

若シ初ヨリ其俸給額ノ中ヨリ租税ニ相當スルモノヲ控除シ以テ俸給額ヲ定ムルニ於テハ他ノ臣民ハ官吏ハ租税ヲ負擔スルコトナク不公平ナリトノ感覺ヲ起ス可ク政治的動搖ノ劇烈ナルニ當リテハ殊ニ攻撃ヲ免カレサル可シ殊ニ國家ハ必要ニ際シ他ノ租税モ其率ヲ増加スルニ當リ此減定法ハ租税ノ一般ノ原則ニ反ス可シ

俸給税率ヲ定ムルニ當リテハ此租税ノ決シテ移轉スルコトヲ得サルコト及ヒ甚タ生計ノ程度ノ低キ義務者ヲ顧慮スルコトヲ要セス「スタイン」博士ノ説ニ依レハ俸給税ヲ課スルニ當リテハ其税額ニ須ラク官吏カ俸給ノ中ニテ貯蓄ヲ爲シ得キ部分ヲ定限ト爲スヘシト云ヘリ勿論其職務ニ附帶スル所ノ費用ハ之ヲ控除シ又其職務ニ附從スル所ノ收入ハ之ヲ加ヘサル可カラス然レトモ此收入ハ之ヲ知ルコト頗ル困難ナル可シ

佛國ノ俸給税ハ千六百四年ニ制定シ千七百十三年ニ之ヲ廢止シ千七百二十二

年ニ之ヲ回復シ革命ノ時ニ至リテ復タ之ヲ廢止シタリ而シテ其稅額ハ一「リ」  
「ブル」毎ニ二「デ」ンナリキ而シテ當時官職ヲ世襲スルコトヲ得タルヲ以テ官職賣  
買ノ弊ヲ極メタリト云フ

### 第三十七節 資本ニ課スル租稅

#### 第一 家屋稅

抑モ家屋ナルモノハ特ニ世ノ開明ノ進歩ニ伴フノミナラス又人口ノ増殖ニ隨  
ヒテ國民財產ノ一大部分ヲ成シ且甚タ顯明ナルヲ以テ何レノ國ニ於テモ荷モ  
國費ノ多少増加シタル國ニ於テハ租稅ノ目的トシテ之ヲ捕獲シタリ英國所得  
稅ノ分類ヲ見ルニ其第一類中家屋ヨリ生スル收入ノ豫算額一億二千七百四萬  
磅ニシテ土地ヨリ生スルモノハ六千五百四十四萬磅ナリト云フ果シテ然ラハ  
家屋ヨリ生スルモノノ土地ヨリ大ナルコトヲ知ルヘシ

又家屋ナルモノ、需要ハ一般且切要ニシテ増加スル性質ヲ有スルモノナリ故  
ニ此家屋ヨリ生スル所ノ收入ハ人民ノ租稅負擔力ノ伸縮ヲ判斷スルニ最モ價  
値アルモノナリ殊ニ此點ニ付テハ家屋中住屋ヲ最要トス農業又ハ工業ニ使用

セラル、家屋ヨリ生スル所ノ收入ハ大抵ノ場合ニ於テモ其事業ノ總收入ヨリ  
之ヲ區別スルコト甚タ困難ナルヲ以テ此ノ如キ建物ハ或ハ工業稅若クハ農業  
稅之ナキトキハ地租ヲ以テ課稅スルヲ便宜ナリトス可シ例ヘハ千八百八十  
一年ノ普露西家屋稅法ニヨレハ人ノ住居セサルモノニシテ唯農業ノ目的ノ爲メ  
ニ指定セラレタルモノハ租稅ヲ負擔スルコトナシ工業ノ目的ニ指定セラレタ  
ルモノ亦同シトアリ

住居家屋ノ收入ハ其一部分ハ之ヲ其宅地ノ地代ト看做シ他ノ一部分ハ建築ノ  
爲メニ用非ラレタル資本ノ利子ト看做ス而シテ此利子歩合ナルモノハ全國平  
均スルノ傾向アルヲ以テ第一ノ部分ニ比スレハ其動搖少シトス例ヘハ「ザキ」  
ン洲ニ於テハ千八百六十四年制定ノ法律ニ依レハ家屋稅ノ單位ヲ八「ター」レル  
ヨリ百「ター」レルノ間ニ上下セシメタリ其原因ハ主トシテ其家屋ノ位地ノ良否  
ニ在リト云フ

家屋ノ所有者カ其借人ニ貸與スル所ノモノハ住居スルコト及宿泊ノコトノミ  
ニシテ所有者自ラ居住スル代ニ之ヲ他人ニ貸與シタルモノハ何時タリトモ之

ヲ借主ヨリ取上ケテ居住スルコトヲ得ルナリ故ニ所有者自ラ居住スル家屋モ他人ニ貸與シタル家屋モ同様に課税ス可キモノニシテ兩者ノ間ニ區別ヲ設ク可キ理由ハ一モ發見スルコト能ハス然ルニ有名ナル經濟學者ニシテ之ヲ區別シタルハ實ニ怪訝ニ堪ヘサル所ナリ「アダムスミス氏〔富國策第百九十三頁〕ラウ氏財政學第二卷第三百四十三節及ヒ第三百四十七節〕セーフレー氏等ハ即チ此區別ヲ爲シ家屋ノ所有者自ラ居住スルトキハ家屋稅ヲ課ス可カラスト云ヘリ蓋シ此證見ヲ來セタルハ使用資本ノ自用ハ所得ノ一部分ヲ成サストスルニ因ル此點ニ付テハ農地ト家屋トノ間ニ區別ヲ設ク可キノ理アラサルナリ然レトモ一方ヲ順ミレハ他ノ點ニ於テハ此兩者ノ間ニ著シキ區別ノ存スルアルヲ見ル即チ家屋ナルモノハ其性質上容易ニ破損シ易キモノナルヲ以テ此ヨリ生スル收入中ニテ純收入ナルモノヲ計算セント欲スルトキハ其家屋ノ修繕費及火災保險料其他再築費ヲモ減除スルコトヲ要ス然レトモ土地ニ付テハ決シテ此等ノ事アラサルナリ

家屋稅計算ノ古法ヲ尋ヌルニ其電ノ數若クハ煙筒ノ數等ヲ標準トシテ之ヲ算定セリ此計算法ノ簡略ナルカ爲メニ不權衡ヲ來スハ言ヲ俟タサルナリ又或ハ窓戶ノ數ヲ標準トシテ之ヲ算定シタルモノアリ之ヲ稱シテ窓戶稅ト云ヘリ然レトモ家主ニシテ空氣ト光線トヲ節約シテ窓戶ヲ少クスルニ於テハ容易ク其租稅ヲ減スルコトヲ得可キナリ「ボリニ」氏カ窓戶稅ヲ稱シテ空氣光線及溫度ニ課スル稅ナリト云フモ亦宜ナル哉英國ニ於テ曾テ電ノ稅ヲ廢シテ窓戶稅ヲ起スヤ人民悅テ曰ク今ヨリシテ彼ノ厭惡ス可キ見ヌ知ラスノ人收稅吏ヲ指スニ家内ヲ搜索セラルカ如キ事ナキヲ得可シト即チ知ル此變遷ハ一段ノ進歩ナルコトヲ而シテ所謂窓トハ如何ナルモノヲ指スカニ付テハ屢々訴訟ヲ惹起シタリ

更ニ一段ノ進歩ヲ爲シタル家屋稅計算法ハ或ハ直接ニ其家賃ヲ標準トシ或ハ間接ニ其賣價ヲ標準トシ又或ハ更ニ一層間接ナル建築費ヲ標準トシ若クハ其火災保險額ヲ標準トシ以テ之ニ課稅セリ「デーノン」一地方ニ於テハ此最後ノ方法ヲ採リタリト云ヘリ又英國ニ於テハ千八百十七年ノ家屋稅法ニ依リ建築費ヲ標準トシテ之ニ課稅シタリ然ルニ此方法ノ弊害ハ家屋ノ位地ノ良否ヲ判別



スルコトノ困難ナルコト是ナリ  
 諸種ノ收益税ノ中ニ就テ借家ニ課シタルモノヲ以テ最も實際且平均ノ收益ト符  
 合シタルモノトス之ヲ反言スレハ家賃ヲ標準トセル收益税等ト其實際ノ收益ニ  
 符合スルモノハ他ニ其比ヲ見サル所ナリ故ニ又此方法ヲ主張スルノ結果トシ  
 テ借家ニ建テラレタル家屋ニシテ未タ借主ナク且所有者モ此ニ居住セサルモノ  
 ハ家屋税ヲ免セラルヘキナリ此ノ如キ場合ニ於テ國家カ時ニ或ハ其家屋ニ封  
 印ヲ施シテ事實ヲ確ムルモ可ナリ家屋ノ賣買益頻繁ニシテ其熱度ヲ加フルニ  
 從ヒ其課税ノ方法モ亦自ラ適當ナルモノトナル可シ家屋賣買ノ競争未タ劇シ  
 カラサルトキハ其課税ノ方法モ亦改良ヲ促サルハコト少ナカル可シ家屋ヨリ  
 生スル所ノ收益ハ較確定ノモノニシテ其家賃又ハ賣價ノ如キハ所有主ノ賢愚  
 等ノ爲メニ増減スルコト殆ト之アラス然レトモ大都會ニ於テ借家ヲ營業ト爲  
 ス者ハ多少其掛引ニ巧拙ナキニアラス小都會又ハ地方ニ於テ家屋ノ平常ノ收  
 益ヲ最後ノ家賃又ハ賣價ヲ標準トシテ算定スルトキハ大ナル誤ヲ來スコトア  
 ル可シ故ニ地地利ノ如キハ三年間平均ノ賣價ヲ標準ト爲セリ其普通ノ方法ハ

其收益ノ明白ナル家屋ヲ標準トシテ其他ノ家屋ハ此標準ノ何レニ類屬セシム  
 可キヤヲ見之カ階級ヲ附シテ課税スルニ在リ「バイエルン國ノ家屋税法千八百  
 二十八年制定ニ依レハ此標準ト爲ル可キ家屋ノ家賃收益ハ之ヲ三重ニ認ムル  
 モノトセリ即チ第一家主ト借主トノ陳述符合スルコト第二調査委員ノ認可ス  
 ルコト第三他ノ家主中異議者ノ出テサルコト是ナリ「バーヂン」ニ於テハ家屋ノ  
 賣價ヲ標準トシテ計算シタルモ初ハ千八百八十年ヨリ千八百九十年マテノ賣價ヲ  
 標準トシ後ニハ千八百五十二年ヨリ千八百六十二年マテノ賣價ヲ標準ト爲セ  
 リ又普露西ニ於テハ最後十年間ノ平均家賃ヲ標準トシ佛國モ亦最後ノ十年間  
 ノ平均家賃中ヨリ地代金ヲ扣除シタルモノヲ以テ標準ト爲セリ  
 賣買ノ全ク又ハ殆ント之ナキ家屋例ヘハ城廓寺院等ノ如キハ其人ノ地位相當  
 ノ居宅ヲ標準トシテ課税ス又家屋ノ收益ハ土地ノ收益ヨリモ尙ホ短期ニ再調  
 査即チ修正スルヲ要ス何トナレハ家屋ハ其價格ノ變動ヲ受クルコト土地ヨリ  
 モ多クレハナリ殊ニ家賃ノ如キハ殆ント毎年變更ヲ受クルコトナキヲ保セス  
 故ニ埃國ノ家屋税法ニ依レハ毎年之ヲ修正シ又普國ハ十五年毎ニ之ヲ修正ス

ルコト、セリ

## 第二 利子税

貸資本ノ收益ニ課税スルコトハ吾人ノ想像ヨリハ古クヨリ行ハレタルモノニシテ但シ彼ノ或種類ノ宗教ノ宗旨ニ依リ利息ヲ收ムルコトヲ禁シタル國ノ如キハ論外ナリトス「パーゼル」國ニ於テハ千四百五十一年ニ一分五厘ノ利子税ヲ課シタルコトアリト云フ蓋シ大抵ノ場合ハ國家ノ必要ニ際シテ之ヲ起シ其必要ノ經過スルヤ之ヲ廢シタルモノ、如シ而シテ此租税ヲ以テ收益税制ヲシテ完全ナラザルモノノ一要素ナリトスル見解ノ定マリタルハ實ニ近來ノ事タリ蓋シ一方ニ於テハ國費ヲ成ル可ク平等ニ負擔セシム可シトノ感念ト又一方ニ於テハ慚情ニシテ許多ノ收入アル金貸者流ニ對スル世人一般ノ反感ノ結果トシテ起リタルモノナル可シ尤モ國庫ノ收入ノ點ヨリ之ヲ見ルトキハ質入又ハ書入シタル土地又ハ家屋ノ場合ニハ其地租又ハ家屋税ヲ債權者ニ課シ之ヲ債務者ニ免スルトキハ差引増減ナカル可ク唯何レカ正當ナルヤト云フニ歸ス可キノミ即チ感覺上ニ満足ヲ來スヤ否ヤニ在リ「ラウ」氏財政學第二卷三百八十四節

此租税ニ伴フ所ノ一大困難ノ其課税ノ目的物ノ隱蔽シ易キコト是ナリ抑モ此課税ノ下ニ置ク可キ財産ハ許多存在スルト云フコトノミハ國家ノ眼中ニモ明カナリト雖モ其類ヲ知ルコト諸種ノ收益中最モ困難ナルモノナリ「ソグキル」氏財政學且其課税目的物即チ資本ノ移轉ノ容易ナルカタメニ個々ノ場合ニ於テハ課セラレタル租税ノ移轉モ亦甚タ容易ナリ此兩個ノ困難ハ即チ多クノ國ニ於テ國費ノ増加スルニモ拘ハラズ斷然此收入源ヲ起スコトニ逡巡セシメ唯之ヲ交通税又ハ印紙ノ形式ヲ以テ止ム所以ナリ又多クノ學者ノ此租税ニ反對シタルモ亦蓋シ之カ爲メノ「ミアタム」氏之ヲ論シテ曰ク利子税ハ實本ヲ外國ニ驅逐シ爲メニ國內ノ總テノ收入源ヲシテ枯渴セシムルモノナリト「富國策第五編第二章又「スタイン」氏ノ如キハ此租税ハ必ラス常ニ義務者ノ負擔ニ歸ス可シトテ之ニ反對セリ

或ル種類ノ貸資本ノ場合ニハ其額ヲ知ルコト甚タ容易ニシテ且正確ナリ故ニ此正確ナルモノ、ミニ課税ス可シト發議セシ者アリ例ヘハ國內ニ於テ募集シタル國債及地方債ニシテ其債權者ノ明記セルモノ又ハ不動産ヲ抵當ト爲シタ

ル貸借ニシテ其登記制度ノ整ヒタルトキノ如キ是ナリ而シテ若シ此内國ノ記名公債所有者ニノミ課税セントスレハ唯其利子券ニ於テ税額タケノ減少ヲ爲セハ則チ足ルヲ以テ其課税法タル頗ル簡易ナリ然リト雖モ外國ノ所有者ニハ課税スルコト能ハサルヲ以テ之ヲ免稅セサルヲ得サルヘシ内國ニハ課シテ外國ニハ課セサルハ是一ノ困難ナリ是國家ノ債權者ハ他ノ臣民ヨリ多ク租稅ヲ負擔スルノ結果ヲ呈シ國家ヲ債務者トシテ考フレハ決シテ贊成ス可キコトニアラサルカ如シ即チ契約ノ一部分ヲ破ルモノト見ルモ不當ニアラス宜ナルカナ曾テ英國ノ少年宰相ビット氏ヲシテ議院ニ於テ「國家ノ債權者ニハ宜シク何等ノ租稅ヲモ課セサル可シト叫ハシメタルヤ

其他外國ニ動作スル資本ノ如キハ法廷宣言ノ方法ニ依リ之ニ課税スルノ外策ナカル可シ然レトモ此等ノ場合ニハ不完全且不正確タルヲ免カレサルヲ以テ豫メ此ニ注意セサル可ラス又負債請求ニ關スル訴訟ノ提起ヲ其租稅ヲ負擔セルヤ否ヤニヨリ或ハ許シ或ハ許サ、ルノ制度ハ此租稅ヲ免カル、コトヲシテ困難ナラシムル一ノ方法ナリト雖モ且租稅監督ナル一ノ目的ノ爲メニ總テ

讓スルハ商號使用者ヲ他ノ商號使用者ニ對シテ保護セルモノニシテ若シ商號使用者ニシテ此權利ヲ拋棄スルニ於テハ何人カ同商號ヲ使用スルモ法律ハ之ヲ禁セサルナリ故ニ商號使用權ハ商號ヲ使用スル者ノ間ニ効力アル權利ニシテ一般世人ヲ保護スルヲ目的トスル者ニ非ス商號使用者ヲ保護セントスルナリ故ニ商號使用者ニ於テ商號ノミヲ讓渡スト云フハ恰モ其商號使用權ヲ拋棄スルト同シク法律ハ強ヒテ之ヲ禁止セサルナリ

商號ノ讓渡アリタルトキハ讓受人ハ讓渡人ノ權利ヲ全然承繼スヘシ故ニ讓渡人ハ其商號ヲ使用スルコトヲ得サルハ無論ナリ但讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ讓渡登記ヲ爲サ、ルヘカラス

商號ハ單獨ニ讓渡スコトヲ得ヘシト雖モ其ノ商人ノ營業上ノ名ナルカ故ニ營業ト共ニ讓渡スヲ以テ通常トス商號ヲ營業ト共ニ讓渡シタル場合ニ於テ讓渡人カ其商號ヲ使用スルコトヲ得サルハ無論ナルカ更ニ同一ノ營業ヲ開始スルコトヲ得ルヤ當事者間ニ於テ特約アル場合ニハ無論其特約ノ旨趣ニ從ハサルヘカラス唯當事者カ特ニ此點ニ關シテ契約セサルトキハ如何法律ハ此場合ニ於テ

ハ當事者ノ意思ヲ推測シテ同市町村内ニ於テハ讓渡人ハ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得スト規定セリ蓋シ當事者ニシテ商號ト共ニ營業ノ全部ヲ讓渡シ他ニ別段ノ意思ヲ表示セザルトキハ其營業ニ屬スル權利義務ハ勿論其營業ニ關スル信用其他一切ノ關係ヲ包括シテ(俗ニ謂フカム)讓渡シタル意思ナルヘキヲ以テ讓渡人ハ競争トナルヘキ營業ヲ爲サ、ルヘキ趣旨ナリト解釋スルハ當然ノ事理ナルヘシ(第二條第一項)然モ各人ハ營業ノ自由ヲ有シ又普通ノ營業ハ競業者マルニ因リテ發達スルモノナルヲ以テ營業ノ自由ヲ永年拋棄セシムルハ公益ヲ害スル恐ナシトセス故ニ特ニ競業禁止ノ約束アルトキハ其約束ニ從フコトヲ許スト雖モ其年限ヲ制限セザルヘカラス之ト同一ノ理由ニ基キ競業ヲ爲サ、ルヘキ地區モ亦制限セザルヘカラス是第二十二條第二項ニ讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲サ、ル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エザル範圍内ニ於テノミ其効力ヲ有スト規定セル所以ナリ

前述ノ如ク法律ハ當事者ニ特約ナキトキハ二十年間ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得スト規定シタルヲ以テ他ノ市町村内ニ於テ營業スル場合

又ハ同市町村内ト雖モ二十年ヲ過キタルトキハ讓渡人ハ自由ニ同一營業ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スハ契約ノ意思ニ反スルモノト看做サ、ルヘカラス又第二十二條第二項ノ制限ハ公益ノ爲メニ設ケタル制限ナリト雖モ此制限ヲ以テ不正ノ競争ヲ目的トスル者ヲモ保護スルノ必要ナシ故ニ第二十二條第三項ノ規定アリ

以上陳述セル商號ト營業トヲ共ニ讓渡シタル場合ノ規定ハ營業ノミヲ讓渡シタル場合ニ準用セラル(第二三條)

備考 營業ハ權利義務ヲ包括スルヲ以テ營業ノ讓渡ハ所謂包括承繼ナリ此包括承繼ハ一ヶ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ商法ハ營業讓渡ノ手續ヲ規定セルモノナキヲ以テ商慣習法ニ依ラサルヘカラス而シテ我國ノ商界ニ果シテ此點ニ關スル慣習法アルヤ否ヤ余ハ未タ判知セス若シ商慣習法ナクハ民法ノ規定ニ依ラサルヘカラス然ルニ民法ニ於テハ各權利各義務ヲ移轉スルニハ各一定ノ規定ニ依ラサルヘカラス例之ハ債權ハ讓渡ノ方法更改ノ方法故ニ一ヶノ行爲ヲ以テ營業ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五章 商業帳簿

六〇

歐洲ニ於テハ中世紀ノ頃已ニ商人ハ其財産上ノ地位及日常ノ取引ヲ明瞭ナラシムヘキ帳簿ヲ備フルノ義務アリキ商業帳簿ハ概シテ三種アリ(一)日記帳(二)財産目録(三)貸借對照表是ナリ

(一) 日記帳ハ日常ノ商取引及財産ニ影響ヲ及ホスヘキ一切ノ事項ヲ日々記録スル所ノモノニシテ第二五條商人ハ整然且明瞭ニ日記帳ヲ記載セサルヘカラス商人カ商業帳簿ニ記載スヘキ事項ハ必スシモ其商業上ノ事項ニ限ラス苟クモ其財産又ハ財産ニ影響ヲ及ホス事項ハ一切之ヲ記載スルコトヲ要ス蓋シ普通商人ハ其商業ノ爲メニ特ニ資本ヲ分別スルコトアリト雖モ商業資本モ亦商人ノ財産ナルヲ以テ彼此判然タル區別アルニ非ス如何ニ之ヲ流用スルモ妨ナキナリ故ニ商人ノ財産上ノ地位ヲ明ニセント欲セハ其商業上ノ事項ナルト否トヲ問ハス總テ之ヲ記載セシムルコトヲ要スルナリ故ニ家事費用ノ如キモ亦之ヲ記載セシメサルヘカラス然レトモ家事費用ハ日々之ヲ記載スルコトヲ要セス一ヶ月毎ニ其總額ヲ掲ケシムルナリ又小賣取引ノ如キハ同シク商取引ナ

リト雖モ之ヲ各取引毎ニ記載スルハ其繁ニ堪エサルノ恐アルヲ以テ日々ノ賣上總額ノミヲ記載セシムルナリ但現金ト掛賣トヲ區別シテ掲ケルコトヲ要ス蓋シ掛賣ハ債權ヲ設定スルモノニシテ直ニ代價ヲ受取ル現金賣ト其財産ニ及ホス影響ヲ異ニスル所アルヲ以テナリ

(二) 財産目録 財産目録ハ或時期ニ於ケル商人ノ財産ノ現在ヲ示スヲ目的トスルモノニシテ動産不動産等ノ有體財産ハ勿論債權債務消極財産其他一切ノ財産關係ヲ記載シタル帳簿ナリ此財産目録ハ財産ノ現狀ヲ示スヲ目的トスルモノナルヲ以テ目録ノ各科目ニ其當時ニ於ケル價格ヲ附スルコトヲ要ス故ニ同一ノ財産科目ニシテ前後ノ財産目録ニ於テ其價格ヲ異ニスルコトアルヘク又債權ノ如キハ辨濟ヲ得ヘキ限度ニ於テ其價格ヲ計算セサルヘカラス從テ全ク辨濟ヲ得サルヘキ債權ノ如キハ科目ハ之ヲ掲載スルモ價格ヲ附スルコトヲ得サルナリ(第二六條舊商法第三二條第二項)

(三) 貸借對照表 貸借對照表ハ商人ノ資産ト負債トノ關係ヲ表明スルモノナリ其財産目録ト異ナル所ハ財産目録ハ財産關係ノ全面ヲ明カニスルヲ以テ目

本店貸借對照表

借方	摘要	貸方
	定期預金	13,000,000
	當座預金	37,053,000
	支拂送金手形	2,547,000
	他店ヨリ借(幾箇所)	2,600,000
17,500,000	貸付金	
765,500	當座預金貸越	
32,184,500	割引手形	
2,500,000	荷爲替手形	
5,200,000	公債證書	
18,500,000	他店へ貸	
4,100,000	支店へ貸	
5,000,000	支店元金	
	.....	
	實本金	100,000,000
50,000,000	挑込未濟實本金	
	積立金	7,000,000
	當期純益金	1,976,000
	.....	
1,300,000	營業用地所建物	
200,000	全什器	
26,926,000	金銀有高	
16,176,000	合計	164,176,000

南法規則

六三

(第二號)

のトシ貸借對照表ハ單ニ權利義務ノ對照ヲ一目瞭然タラシムルヲ目的トスルモノナルヲ以テ貸借對照表ハ財産目錄ノ摘要ニ過キサルナリ舊商法ニ於テハ財産目錄ニ記載スヘキ事項ヲ動産不動産ノ有體財産ニ限リタリ其ノ何故ニ債權ノ記載ヲ不用ト認メシヤ解スルコト能ハス且財産目錄ハ財産ノ現狀ヲ示スヲ目的トスルモノナレハ債權モ亦タ之ヲ記載セサルヘカラス舊商法ハ又貸借對照表ニ於テモ各個科目ノ價格ヲ附記スルコトヲ命シタルヲ以テ貸借對照表ハ却テ財産目錄ヨリ明細ナル財産表ニシテ己ニ貸借對照表ヲ作成スル以上ハ故ラニ財産目錄ヲ作ルノ必要ナキカ如シ故ニ新法ニ於テハ歐洲ノ商業帳簿ノ實際ニ鑑ミテ財産目錄ヲ以テ權利義務ノ明細表ト爲シ之ヲ摘要シテ貸借對照表ヲ作リ權利義務ノ比較ヲ一目瞭然タラシムル主義ヲ採レルナリ

今左ニ參考トシテ明治二十六年大藏省令第七號銀行條例施行細則ニ依ル財産目錄及貸借對照表ノ書式ヲ掲ケテ之ヲ説明スヘシ

六二

第何期貸借表

資產		金額	負債		金額
貸付金	二九,九〇〇,〇〇〇	定期預金	定期預金	二一,五〇〇,〇〇〇	
當座預金	一,三〇〇,〇〇〇		當座預金	六二,一六五,五〇〇	
割引手形	五,一四七,一〇〇	支拂送金手形	四四〇,〇〇〇		
荷爲替手形	四,三〇〇,〇〇〇	他店ヨリ借	一四七,〇八五,〇〇〇		
公債證書	七,五〇〇,〇〇〇	資本金	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇		
他店へ貸	二九,五二四,〇〇〇	積立金	七〇〇,〇〇〇,〇〇〇		
拂込未済資本金	五〇,〇〇〇,〇〇〇	當期純益金	二,四六四,〇〇〇		
營業用地所建物	二,〇〇〇,〇〇〇				
全什器	二五〇,〇〇〇				
金銀有高	三五,九八七,〇〇〇				
内課					
合計	二二二,三三八〇,〇〇〇	合計	二二二,三三八〇,〇〇〇		

要ナク又戦時等ニ在リテ之カ需要ヲ満足スルニ足ル可キ巨額ノ經費ヲ正金ニテ貯藏センコトハ始ト事實不能ニ屬スルモノト謂ハスンハアラズ

終リニ臨ミ尙ホ一言ス可キハ非常準備金ヲ以テ公債ヲ買收スルトキハ内國債外國債何レヲ可ナリト爲スヤニ在リ「ボリユー」氏其他有力ナル財政學者ノ論スル所ニ據レハ多ク外國債ヲ以テ勝レリト爲スモノ、如シ今所論ノ大要ヲ述フレハ内國債ヲ購入スルトキハ其資本ヲ輸出スルノ憂ナク一國流動資本ノ額ヲ減少スルコトナシト雖モ元來此準備タル非常ノ支出ニ備フルモノナルヲ以テ非常ノ場合ハ當該國ノ公債下落スルコトハ當然ノコトナリトス若シ一方ニ外國債ヲ以テセハ一時資本ヲ外國ニ輸出スルノ不利アレトモ此準備ニ充ツル金額ハ歳入ノ殘餘又ハ不時ノ收入ヲ以テスルカ故ニ別ニ費途アルニ非ス隨テ之ヲ輸出スルモ甚シキ損害アリト謂フコトヲ得ス況ヤ其償却ニ因リテ其元金ヲ回收スルニ於テ「ヤ」加フルニ内國債ノ利子ハ政府歳入ノ中ニ編入スト雖モ是レ即チ國民ノ拂フ所ノ税金ナリ外國債ノ利子ニ至リテハ全ク外國ヨリ得ルモノタリ而シテ一朝事變アル場合ニ在リテモ外國債ハ敗北スヘシト思惟セラレ

タル敵國ノ公債ナルカ其他ノ特別ノ場合ノ外ハ爲メニ下落スルコトナシ云々ト云フニ在リ私見ヲ以テスレハ第一ニ非常準備金ヲ認メス第二之ヲ認ムルモ公債等ヲ以テ所持スルトキハ名ハ非常準備金ナリトスルモ實ハ其用ヲ充タス克ハサルモノナルヲ以テ此場合ハ非常準備ノ爲メ何レカ効果アルヤ否ヤノ問題ハ先ヲ以テ論點外ニ置クヘキモノト信ス隨テ單ニ財政上ノ原則ヨリ尤モ政府ニ利益アル方法ヲ取ルヲ以テ勝レリト爲スナリ隨テ本問ノ場合ノ如キ當時當該國ノ金融界ノ狀態財政界ノ形勢如何ニ由リ絕對ニ此ヲ論斷シ難キモ利子ノ高低ヲ標準トシ結局利益ノ大ナル方ヲ取ルヲ可トスルモノナリ故ニ今我邦等ニ在リテハ名ハ非常準備タラシモ平時戰時東西同時ニ其目的ヲ達セントハ事實不能ニ屬シ其額又些少ナルモノナレハ宜シク公債ヲ購入ス可ク又其公債ハ我内國債ハ外國債ニ比シテ利子ノ大ナルノミナラス其計算移轉等手數ニ於テ又内國債ヲ以テ便ト爲スヲ以テ宜シク内國債ヲ購入スルヲ以テ勝レリト信ス非常準備ノ目的ニ副フヤ否ヤハ既ニ前提ニ於テ余ノ取ラサル所ナリ

### 第三 租稅ト公債

臨時費支辨ノ方法トシテ官有財産ノ拂下又ハ非常準備金ノ不可ナルコトハ上述スル所ノ如シ而シテ租稅ノ新設又ハ増率ヲ可トスルカ或ハ公債ノ募集ヲ可トスルヤニ至リテハ利害關係複雑シテ絕對ニ之カ是非ヲ論斷シ難キ所アリ學說モ亦多岐ニ分レテ一定スル所アルヲ見ス今便宜ノ爲メ茲ニ併セ論シテ其利害ヲ對照シ此カ大略ノ概念ヲ述ヘントス

公債ハ現世ノ人カ其利益ノミヲ享有シテ其苦痛ノミヲ未來ノ人ニ轉嫁スルモノナリトハ消極論者ノ一說トス此說ハ彼ノ公債ハ利益ヲ後世ニ殘スモノナレハ後世子孫又其責ヲ分ツ可シト云フ說ヲ濫用シテ不生産の經費ヲ起ス場合ニ於テハ必シモ不常ナラスト爲スモ此レ公債ノ一面ヲ見タル偏見ニ過キサレモノトス公債其者ハ固ヨリ絕對的ニ有益ナルモノナリト爲ス能ハサルト共ニ又絕對的ニ有害ナルモノト斷言ス可カラズ其利害ハ一ニ其使用方法ニ存ス募集シテ得ル所ノ經費モ之ヲ不生産的ニ浪費スレハ害毒最モ甚シカルヘク之ヲ生産的ニ利用シテ其元利ヲ償却シ猶ホ許多ノ貨財ヲ生産スレハ利益最モ大ナル可シ荷クモ其募集シテ得タル資本ニシテ國家ガ自存發達ノ爲メ必要ナル經費



ニ使用セラレシカ後世子孫此カ苦痛ノ一部ヲ分擔スルコトハ却テ公平ヲ得タルモノト謂ハスンハ非ラス要之公債ノ利害ヲ通觀シテ公債ナルモノカ國家ノ財政上他ノ方法ニ比シテ利便多ク又或場合ニハ他ニ之ニ應スヘキ方法無キコト明カナル以上ハ最モ必要ナル方法ナリト謂ハスンハ非ラス使用方法ノ結果トシテ利害ヲ異ニスルハ世上萬般ノモノ舉ゲテ皆然リ豈獨リ公債ニノミ限ラレンヤ

然レトモ今事實ニ於テ之ヲ徵スレハ財政ノ組織未タ全カラサル土耳其西班牙埃及秘魯支那朝鮮ノ如キハ姑ク之ヲ措キ文化ノ發達セル歐米各國ノ史乘ニ於テ偏見論者ノ說當レルモノ亦揚シト爲サス道德上ハ勿論經濟上ヨリ見ルモノ國ハ常ニ前代ヨリ繼承セシモノ及ヒ其以上ノモノヲ後代ニ遺留スルノ義務アルモノト謂ハスンハ非ス而シテ何レノ國ニ通スルモ國債ノ使用法其宜シキヲ得サル爲メ多少ノ弊害ヲ貽サ、ルモノ稀ナリ此等ノ弊害ハ國債其モノヲ全ク使用スルコトヲ得サルノ不便不利ニ比スレハ固ヨリ比較的輕微ナルモノナルヘキモ國債ハ其使用方法ニ於テ其効果ノ大ナル丈ケニ又誤用シ易キモノト謂

ハスンハ非ラサルナリ換言スレハ國家カ豫期ス可ラサル事變ニ因リ急速ニ巨額ノ支出ヲ要スル場合ノ如キ假令租稅ニ依ルヲ以テ至當ナリト假定スルモ事實ニ於テ全ク不能ニ屬シ國債ニ依ラサルヲ得サル場合ヲ多シト爲ス又政府カ土木其他ノ事業ヲ起スニ際スルモ此等ノ事業ハ痛切ニ人民ニ利害關係ヲ惹起サ、ルヲ以テ租稅等ニ依ルハ人民ノ反抗ヲ招キ易ク一方ニハ又事業ノ峻功ノ遲滞ハ投下資本ヲ二重ニ損シ率テ富ノ増殖ヲ減殺スルモノナルヲ以テ又國債ニ依ルヲ例ト爲スモノナリ而シテ此等ノ場合ヲ通シテ租稅ニ依ル可ラス否租稅ニ依ル能ハスシテ國債ニ依ラサルヲ得サル所以ハ偶以テ國債ノ使用方法ノ誤ラル、コト多キ所以ニシテ古來學者カ一々條目ヲ對照シテ此カ利害ヲ列舉スルモ結局此點ニ皈一スルモノニ外ナラサルナリ

國債ハ正宗ノ刀ナリ其銳利鐵ヲ割クニ足ルト共ニ其濫用ハ又甚シキ害毒ヲ醸シ又其濫用サル、機會少シト爲サ、ルナリ國債ノ弊害ハ國債其モノニ存セスシテ之カ使用方法ノ誤マラレ易キニ在リ國債ノ募集ハ政府ノ浪費ヲ誘引シテ行政ノ弛廢ヲ來スト曰ヒ租稅ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ國債ニ依ルハ政府好

シテ損失ヲ招クモノナリト曰ヒ國債ノ募集ハ却テ政府ノ信用ヲ失墜シテ財政ヲ紊亂スルノ虞アリト曰ヒ租稅ハ國債ニ比レテ政府人民共ニ此カ勤勉節儉ヲ獎勵スト曰ヒ屬國債ヲ募集スルニ於テハ實本家ヲシテ偷安ノ氣ヲ生セシメ必要ナル事業ノ發達ヲ妨害スルノ憂アリト曰ヒ國債ハ一國流動資本ノ増加ヲ障害シ不動資本ノ改良ヲ阻害スルノ弊アリト曰ヒ國債ハ戰爭ヲ誘導シ租稅ハ戰爭ヲ制止スト曰ヒ國債ハ國民ノ財政監督ヲ軟弱ナラシムルモノナリト曰ヒ國債ノ募集ハ物價ノ昂騰ヲ來タシ率ヲ恐慌ノ原由ヲ爲スモノナリト曰ヒ國債ハ勞力者ノミヲシテ國費ヲ負擔セシムルモノナリト曰フ等此等ノ非難モ究竟國債ノ使用方法ノ誤ラレ易シト云フニ歸一スルモノニシテ其使用方法ノ誤ラレ易キハ一ニ其募集ノ容易ナルニ在リ收入ノ途容易ナルトキハ臨費ノ之ニ伴フハ數ノ免レ難キ所ニシテ殊ニ政府ニ在リテハ負債ノ危期一私人ノ場合ニ比シテ來ルコト運ク又此カ救正手段ニ乏シカラサルヲ以テ不知不識ノ間ニ弊害ヲ釀成シ管ニ租稅ニ依ル可キ場合ニ國債ヲ以テスルノミナラス執政者ノ功名心不注意ハ不急無用ノ事業ヲ企テ時ニ一國ノ生存ヲ危クスルコト少カラス是レ

一方ニハ人民カ租稅ノ場合ノ如ク其利害關係直接ニ影響スル所ナキヲ以テ國債ヲ起スモ結局之カ償還ノ爲メ後來租稅ヲ起ス可キモ眼前ノ利害關係ニ影響セサルヨリ之カ利害ヲ討究スルコト自ラ等閑ニ付シ易ク殊ニ應募者即チ社會ノ有力ナル一部分ヨリ見レハ管ニ元金ノ償還ヲ受クルノミナラス尙ホ利子ヲ取得スルモノナルヲ以テ輿論ノ反抗ヲ招クコト尠ク寧ロ一部實本家ノ歡迎ヲ受クルモノナルヲ以テ政府ハ租稅徵集ニ由リテ支辨セラルヘキ經費モ平易ニ財政一時ノ彌縫ヲ國債募集ニ依ルノ傾向ヲ生シ易シ所謂「ユーム」カ政府カ國債ノ募集權ヲ得ルハ猶ホ浪費者ニ倫敦ノ銀行ヨリ預金引出ノ權利ヲ與フルニ異ナラスト云ヘルモノ亦是ナリ

國債ノ利害ハ之ヲ一々政治上財政上社會上經濟上ヨリ觀察スルハ其本旨ニ非ナルヲ以テ此ニハ唯場合ヲ分チテ臨時費支出ノ場合ニ於ケル國債ト租稅トノ對照ヲ試ミントス

臨時費ノ性質ヲ分類スレハ其間ニ豫期ス可キモノト豫期ス可カラサルモノアリ天災地變殊ニ戰爭ノ如キハ其發生ノ豫期シ難キノミナラス其經費ノ總額

モ亦豫期シ難キモノナリ土木等ノ爲メニ要スル費用即チ郵便、電信、鐵道、築港、運河其他軍備等ノ企業ニ在リテハ其發生其經費共ニ大牒ニ於テ之ヲ豫期スルニ難シト爲ナス而シテ前者ハ其支出ノ絕對的ニ急速ナルコトヲ要スル場合多ク後者ハ其支出ノ相對的ニ急速ナルコトヲ要スル場合多シ即チ急速ナラサルヲ得サルニハ非サレトモ此等ノ生産事業等ハ速ニ竣功セシムル一方ニハ其間投下セル資本ヲ死物ト爲シ一方ニハ富ノ増殖ヲ遲延セシムルノ虞アルヲ以テ急速ナルヲ便ト爲スモノナリ殊ニ此等ノ事業ハ其利害關係一般ノ人民ニ通シテ緊切ナルモノニ非サルヲ以テ増税ハ管ニ急速ノ需要ヲ充ス能ハサルノミナラス一般人民ノ反抗ヲ招キ易キモノナリトス故ニ土木事業ノ經營ニハ國債ニ依ルコトヲ例ト爲スハ前述セル處ノ如シ

濠洲殖民地及ヒ印度ノ公債ノ如キ殆ト皆土木ノ爲メニ起セシモノニシテ歐米ニ於テモ土木ノ爲メ國債ヲ起スモノ甚タ多シ其著名ナルモノニ至リテハ佛蘭西、英、吉、利、埃、及等カ起セル蘇士運河公債ノ如キ佛蘭西ノ巴奈馬運河會社ノ株券ヲ保證セルカ如キ露西亞ノ西比利亞鐵道公債ノ如キ其例ナ

リ我國ニ在リテモ明治十一年ニ發行セル起業公債、明治十六年ニ發行セル中山道鐵道公債、明治十九年ニ發行セル海軍公債、明治二十九年ニ發行セル事業公債ノ如キ皆此類ニシテ其他地方ノ自治團體ニ於テ起セル地方公債ニ至リテハ其類各國ニ通シテ甚タ多シ

此等ノ事業ニ在リテモ一時ニ之ヲ起ストキハ忽チ流動資本ト固定資本ノ權衡ヲ失シ金融市場ニ激動ヲ來タスハ自明ノ理ニシテ外國債ニ依ルトキハ急激ナル資本ノ潤澤ハ物價ノ暴騰、投機事業ノ濫興ヲ來タシ其反動トシテ金利ノ上騰、物價ノ下落ト爲リ經濟界ヲ紊亂スヘク又内國債ニ依ルトキハ流動資本ヲ吸收シテ金融ノ逼迫ヲ來タシ率テ恐慌ヲ來タスニ至ルハ米國大洋鐵道ノ起業ニ徴スルモ言フ俟タサル所ナリ一方ニハ急速ヲ要スルハ其一方ニハ之ニ對シ當時ノ經濟界ノ趨勢ニ鑑ミテ多少ノ斟酌ヲ加ヘスルハ非サルナリ論者或ハ直接間接ニ政府カ土木事業ヲ經營スルコトヲ非難シ英國ノ實例ヲ引キテ根本ヨリ消極論ヲ主張スル者アリ是レ自由放任主義ニ偏セル所見ニシテ固ヨリ干渉ノ極民業ト相競争スルハ其弊害少カラスト爲スモ歴史土放任主義

ノ理論實際ニ行ハレ其富ノ大ニシテ其人民ノ進取ノ氣象ニ富メル英國ヲ以テ直チニ一般ヲ律スルハ其根本ニ於テ誤レルノミナラス英國ト雖モ地方政府ニ在リテハ其公債ノ大部ハ土木事業ノ經營ニ屬シ而モ年々多少ノ増加ヲ示シ(一千八百六十七年ニハ五九八七〇〇〇磅ナリシモ一千八百七十四年ニハ八二〇一四九九磅ト爲レリ)アングロ、サキソン(入種モ印度、澳洲、加奈太、喜望峯等ノ殖民地在ニ在リテハ土木ノ公債ヲ起スヲ例ト爲セリ(如何ナル場合ニ政府カ進テ經營スルモ害ナキヤ又利アルヤハ收入編官業論ニ詳ナリ)

要之起業公債モ那翁三世ノ如ク不急無用ノ事業ニ濫費スレハ固ヨリ其害毒大ナルモ苟クモ有用ナル事業ナルトキハ金融界ノ狀況ト其事業ノ性質必要ト對照シテ國債ノ募集ニ依ル可ク若シ租税ニ依ルモ尙ホ害ナシトスレハ之ニ依ルヘキコト又言ヲ俟タサルナリ唯概シテ其全部ヲ租税ノ方法ニ依リテ支障ナキ場合カ事實ニ於テ多カラスト云フニ過キササルナリ

豫期セカタキ支出即チ主トシテ軍事費ニ付テハ「アダム、スミス」「リカルド」「ヂヤン、バプチスト、セイ」「シヨセフ、ガルニエー」「シハセー」「コルベール」「グラッドストーン」等

ノ大家ニシテ租税ヲ以テ全ク不慮ノ費用ヲ仕拂フヘシト主張スル者アリ「アダム、スミス」氏ノ如キ其所論ハ經濟上財政上等ニ基因セスシテ道德上ノ觀念ヨリ立論シ戰爭等ノ時ニ當リ政府重税ヲ課シテ民心ヲ失フヲ恐レ稍モスレハ國債ヲ募集シテ其費用ヲ助ケ後世子孫ヲシテ重税ヲ負擔セシムルカ如キハ理ニ於テ爲ス可カラス大國ノ人民ニシテ遙ニ戰地ニ遠カレル者ハ戰爭ノ災害ヲ被ラヌ却テ日々其軍勢ノ勝報等ニ接シ快ヲ取ルモノニ似タリ故ニ重税ヲ負擔スト雖モ決シテ不滿ノ念ヲ懷クモノニ非ラスト述ヘ又グラッドストーン「氏カ」クリミヤ「戰爭ノ際主張セル論據ノ如キモ亦道德ノ觀念ニ基シ國債ヲ以テ事ヲ爲スハ眞ニ之ヲ爲スニ非ラス後世ヲシテ其局ヲ結ハシムルモノナリ而シテ戰爭ニハ多少ノ名譽之ニ伴フモノナレハ特ニ租税ノ重キヲ覺エサルモノハ戰爭ノ痛苦ヲ悟ラス動モスレハ國力ヲ濫用シテ干戈ヲ動カス憂アルヲ以テ殊ニ其重税ヲ悟ラシムルハ大ニ一國人民ノ勤勉慎重ノ念ヲ喚起スルモノナリト論セリ又「コルベール」氏ノ如キ財政上國債ノ増加ハ一方ニ租税ノ増加ヲ遞増シ遂ニ停止スル所ヲ知ラサルニ至ルコトヲ論セリ此等ノ所論固ヨリ絕對ニ非難ス可カラ

ナルモ非常ノ費用ヲ任拂フニ當リテ租税ノ不便ナルコトハ事實問題トシテ此カ急速ノ需要ニ應スルコト克ハサルニ在リ。其ノ爲メハ、  
 急速ノ需要殊ニ軍事費ノ如キハ供給ノ機ヲ失スレハ率キテ一國ノ生存ヲ左右スルモノナリ。隨テ若シ租税ニ依ルモノトセハ勢ヒ増税ニ依ラズンハ非ラス然レトモ近時何レノ財政ニ於テモ經費ノ支出益多キヲ加ヘ平時ニ在リテ税率ヲ低度ニ止メテ非常ノ需要アルニ際シ之ニ應スルノ餘裕ヲ作ルコトハ殆ト稀ニシテ殊ニ直接税等ハ納税期一定セルヲ以テ之ヲ變更シテ増率シ一時ノ收入ヲ期センコトハ容易ノ事業ニ非ス又間接税等ハ納税期一定セサルヲ例ト爲スモ此等ハ税率ノ昂騰ハ却テ一方ニ其總額ヲ減少スルコトアリ即チ一方ニハ輸出税ノ如キ此カ全廢又ハ減税ニ由リテ生産事業ノ勃興ヲ來シ却テ他ノ税目ニ於テ増加ヲ見ルト共ニ一方ニハ郵便税ノ如キ酒税ノ如キ此カ増率ハ此カ需要ヲ減シテ結局收入ノ増加セサルモノアルハ現ニ我邦現時ノ實例ニ於テ知ル所ナリ況ヤ軍事費ノ如キ巨額ノ支出ヲ要スルモノニ在リテハ必スヤ新税ニ依ラズンハ非ラス而シテ新税ノ設置ハ政府爲メニ許多ノ手數ト費用ヲ要シ收入緩慢

ニシテ急速ノ需要ニ應スル能ハス豫定額ノ收入ヲ期スルニ難ク若シ豫期ニ反スレハ財政破綻ノ基ヲ開キ人民ノ感情ヲ害スルコト深クシテ租税ノ原則タル公正平等ヲ誤ルコト多カル可ク結局新税ニ依ラントハ絶對的不能ナリト斷言スルモ敢テ不可アルヲ見サルナリ故ニ若シ租税ニ依ラントスレハ財源ヲ潤渴シ一般生産事業ヲ阻害セサル範圍内ニ於テ増率ノ法ニ依ラズンハ非ラス而シテ其時期ノ遷延ハ納税期ノ一定セルモノニ於テ殊ニ甚シキヲ見ルヲ以テ多クハ先ツ税率ヲ増シ又ハ新税ヲ起スヤ其實收ニ先シテ大藏省證券ヲ發行シテ急速ノ需要ニ應シ租税ノ實施ヲ以テ漸次之ヲ償却スルノ法アリ英國カ「クリミヤ」戰爭ニ於テ實驗セシ方法はナリ  
 「クリミヤ」戰爭ニ於ケル英國財政ノ措置ハ非常支出ノ爲メ租税ニ依リシ好箇ノ實例ニシテ又他ニ例ヲ見サル所ナリトス蓋シ當時ノ英國ハ四十年ノ太平ノ後ヲ受ケ諸税殊ニ間接ハ非常ノ減額ヲ經其租税ヲ増加セント雖モ唯舊税率ニ復セシニ過キサリシナリ而シテ「タリミヤ」戰爭ハ輿論ノ歡迎ヲ受ケ殊ニ戦地ハ本國ヲ去ル八百海里ノ外ニ在リテ内地ノ營業ハ爲メニ妨害ヲ受クルコトナク派

出ノ兵員又僅ニ四萬ヲ超ユス露ノ海軍ハ英ノ商船ニ危害ヲ加フルノ力ナク露  
 英ノ商業其利害關係痛切ナラス其經營ノ總額モ露佛ニ比シテ少ナク其需要モ  
 亦急速ヲ要セス而シテ其終局ハ勝利ニ了リシモノナルヲ以テ斯ノ如キ機會ハ  
 英國ニ於テ又稀有ニ屬スルモノニシテ他國ニ在リテハ又殆ト期スルコト克ハ  
 ナルモノタリ而シテ此好機會ニ於テ仍ホ此方法ヲ以テ貫クコト克ハサリシハ  
 少クトモ此等ノ場合ニ於テ全ク租税ノミニ依ルコトハ絕對ニ不能ナルコトヲ  
 表示スルモノト謂フ可キナリ即チ當時「グラッドストーン」ノ名望勢力ト英國人  
 民ノ富裕ナルニ拘ハラス遂ニ永遠公債ニ依ルノ止ムヲ得サルニ至レリ即チ當  
 初ハ間接税直接税殊ニ所得税ヲ増加シタルモ其收入ノ運々タルト之ヲ急ニ増  
 加スレハ大ニ産業ノ發達ヲ阻害スルコトヲ見出セルヲ以テ一ケ年以内ノ償還  
 期限ヲ有スル大藏省證券ノ發行ニ依リテ之ヲ避ケシモ其證券ノ應募者ノ少キ  
 ト政府豫期ノ如ク之ヲ償還シ能ハサルヨリ遂ニ千八百五十四年法ヲ改メ更ニ  
 全額ノ證券ノ期限三ケ年乃至五ケ年ノモノヲ發行スルコト前後四回ニ及ヘリ  
 若シ此方法ニ依リテ豫期スル所ノ金額ヲ吸收シ尙ホ豫期ノ如ク整理ヲ完ウセ

ンニハ租税増加法ト國債募集法トノ長所ヲ兼用シテ負擔ヲ後世ニ貽スコトナ  
 ク又稀有ノ良法タルヘキモ如何セン應募額ハ僅々七百萬磅ニ止マリテ所要ヲ  
 充タスコト遙ニ遠ク一方ニ「ハグラッドストーン」モ仍ホ所論ヲ一貫シテ重税ヲ課  
 スルコトヲ敢テスルコト克ハス一千八百五十五年四月遂ニ三分利附ヲ以テ一  
 千六百萬磅ノ永遠國債ヲ募集スルノ止ムヲ得サルニ至リ同年又五百萬磅ヲ募  
 集シ翌年ニ至リ更ニ五百萬磅ヲ募リ又大藏省證券三百萬磅ヲ永遠公債ニ借換  
 フルニ至レリ故ニ「クリミア」戰爭費總額六千九百二十七萬七千六百九十四磅中  
 永遠公債ニ係ルモノ二千九百萬磅之ニ大藏省證券ヲ加フレハ總計三千九百七  
 十一萬五千磅ニシテ其過半ハ實ニ國債ノ力ヲ假ルノ止ムヲ得サルニ至レリ蓋  
 シ大藏省證券即チ短期公債ニ依ルコトハ外國ノ游金ヲ吸收スルニ足ラス内國  
 人モ其手數ニ比シテ利益ノ割合少キヲ以テ之ニ應スルモノ少ナク又大銀行ト  
 雖モ巨大ノ額ヲ賣盡スコト克ハサルニ之ヲ購買シテ死物ト爲スノ愚ヲ學ハザ  
 ルノミナラス又克ハサル所ニシテ殊ニ戰爭後三四ケ年間ハ重税ヲ課ス可キト  
 キニ非ラスシテ却テ民力ヲ扶養スヘキトキナルヲ以テ暫ク据置キテ償却セザ

ルヲ便トシ又租税モ無限ニ此ヲ徵收スルコト克ハス通常費ヲ超ユルコト多キ非常費ヲ租税ニ仰カンコトハ殆ト事實不能ト謂ハスンハ非ス地勢ニ於テ富ノ實力ニ於テ國民ノ氣性ニ於テ英國ニ劣レル各國ニ於テ殊ニ然ルノミナラス戰敗北ニ歸セル場合ノ如キ又言ヲ俟タス佛蘭西カ普佛戰爭ノ結果三十億國債ヲ募集シ結局財政ニ於テ佛普ニ克テリト云フカ如キ實況ヲ現ハセシモ畢竟國債ニ特有ナル効果ニ由ルモノト謂ハスンハ非サルナリ

論者或ハ國債ノ募集ノ必要アル多クノ場合即チ戰時等ニ在リテハ人民皆危懼ノ念ヲ懷キ資本ハ多ク藏匿セラレテ警戒ヲ加フル秋ナルヲ以テ資本ノ吸收ハ尤モ困難ヲ極ムル所ナリトス故ニ募集ノ成效ヲ歸センカ爲メニハ種々ノ特典ヲ付與スルコトヲ要スルノミナラス一朝其誘引ニシテ仍ホ効ヲ奏セサルトキハ政府ノ信用失墜シテ第二期第三期ト募集ノ度ヲ重スルニ從ヒ益其失態ノ復拾收スヘカラサルニ至ルモノナリ彼ノ千八百十二年及ヒ千八百六十一年ノ合衆國財政ノ狀況ノ如キ是ナリト然レトモ驪ヲ軍事費ヲ支出スル爲メ政府カ國債ヲ募集シテ而モ其効ヲ奏セサル場合ハ多ク其政府カ戰爭ニ於テ敗北ニ歸ス

有權ヲ取得スル行爲ヲ意味スルモノニシテ之ヲ賃借ト區別スルコトヲ要ス所有權移轉ノ效果ヲ生セシムル目的ヲ以テ爲シタル行爲ハ取得ノ行爲ニシテ賃借ハ毫モ所有權ニ影響スルコトナク單ニ使用收益ノ權利ヲ創設スルニ過キサルモノナリ

## (三)

他人ニ賃貸スルノ意思

他人ニ賃貸スルノ意思ハ取得又ハ賃借ノ當時ニ存在セサルヘカラス取得又ハ賃借ノ當時ニ於テ賃貸スルノ意思ナクシハ他日之ヲ賃貸スルコトアルモ商行爲ト看做スコトヲ得ス

## (第二)

他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行爲

製造又ハ加工ニ關スル行爲ト謂フハ他人ノ爲メニ物品ヲ製造シ又ハ他人ノ材料ニ勞力ヲ加ヘ相手方ヨリ報酬ヲ受ル行爲ヲ謂フ

## (第三)

電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲

## (第四)

運送ニ關スル行爲

荷物運送タルト旅客運送タルト陸商タルト海商タルトヲ問ハス苟モ運

商行爲

送ニ關スル行爲ハ總テ主觀的商行爲ナリ

(第五) 作業又ハ勞務ノ請負

請負ノ何タルヤハ民法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ詳述セス要スルニ請負トハ報酬ヲ受ケテ或仕事ヲ完成セントスル契約ナリ

(第六) 出版印刷又ハ攝影ニ關スル行爲

(第七) 客ノ來集ヲ目的トスル揚屋ノ取引

營利ノ目的ヲ以テスル劇場寄席角力ノ如キモノヲ意味スルモノニシテ營利ノ目的ヲ以テセス單ニ公益ノ目的ヲ有スルモノハ本號中ニハ包含セス

(第八) 兩替其他銀行取引

銀行取引ノ範圍ハ商ノ觀念ノ異ルニ從ヒ同一ナラス如何ナル取引カ銀行取引ナルヤハ商慣習ニ依リテ之ヲ決スヘキノミ我銀行條例供託法等ヲ見レハ約其範圍ヲ知ルコトヲ得ン金錢ノ貸付兩替寄託契約手形ノ割引等ハ今日ニ於テハ銀行取引ト看做スコトヲ得ヘシ

(第九) 保險

保險ハ其目的ヨリ之ヲ區別スレハ生命保險及ヒ損害保險ノ別アリ又營業トシテ爲ス保險ト相互ノ保險トニ區別スルコトヲ得ヘシ本號ニ於テ保險ト稱スルモノハ如何ナルモノナルヤ以上各種ノ保險ヲ包含スルモノナリヤ營業トシテ爲ス保險ノ商行爲タルコトハ疑ナシト雖モ相互ノ保險ハ一定ノ人々集合シテ互ニ保險者被保險者ト爲リ若シ社員ノ一人ニ對シ損害アリタルトキハ之ヲ社員間ニ分ツコトヲ目的トスルモノニシテ利益ヲ得ルヲ以テ目的トセサルモノナルヲ以テ之ヲ商行爲ト稱スルコトヲ得ス然レトモ今日相互ノ保險ト稱スルモノノ多數ハ純然タル相互ノ保險ニ非スシテ營業トシテ爲ス保險ト相互ノ保險ヲ折衷シタルモノナリ隨テ此種ノ相互ノ保險ハ商行爲ト看做スヲ至當トス商法第四百十八條ノ規定ノ如キモ亦此主旨ニ外ナラサルナリ

(第十) 寄託ノ引受

倉庫營業其他荷モ營業トシテ他人ノ動産又ハ有價證券ノ保管ヲ引受ル行爲ハ之ヲ商行爲ト看做スヘキモノナルヲ以テ本號ノ規定アル所以ナ



## 第十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲

## 第十二 商行爲ノ引受

以上第一號乃至第十二號ニ掲タル行爲ハ營業トシテ之ヲ行フ場合ニ限り商行爲タルヘキモノナリ各號ニ關スル精細ノ説明ハ後ニ譲リ此處ニハ唯商法第二百六十四條但書ヲ説明シテ以テ本節ヲ終ヘントス

商法第二百六十四條ノ但書ニ曰ク「但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス」ト蓋シ專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造スル者ハ縱令其材料ヲ自ラ支給スルコトアルモ其目的ハ主トシテ勞力ニ對スル報酬ヲ得ント欲スル者ニシテ其職業ノ輕微ナルカ爲メニ之ヲ商行爲ト看做スヘキモノニ非サルカ故ニ本條但書ヲ設ケテ之ヲ除外セリ

## 第三節 附屬的商行爲

附屬的商行爲ノ何タルヤハ商法第二百六十五條第一項ノ規定スル所ニシテ商人カ其營業ノ爲メニ爲ス行爲ヲ意味スルモノナリ抑モ商行爲ノ體様タル千變

万化極リナキヲ以テ商行爲ノ種類ヲ悉ク列記スルハ立法者ノ能クセサル所ナリ是ヲ以テ商法第二百六十五條ハ概括的ニ營業ヲ容易ニシ若クハ營業ヲ爲スニ必要ナル行爲ハ縱令前條主觀的商行爲又ハ客觀的商行爲ニ屬セサル行爲ト雖モ仍ホ之ヲ商行爲トシ商法ノ規定ヲ適用スヘキコトヲ明カニセリ

附屬的商行爲ハ商人カ營業ノ爲メニ爲スニ依リテ商行爲ト爲ルモノナルヲ以テ商人ハ營業トシテ之ヲ爲スノ必要ナク又繼續シテ之ヲ行フコトヲ必要トセス是レ主觀的商行爲ト異ル所以ナリ

## 第四節 推定的商行爲

商法第二百六十五條第二項ハ推定的商行爲ニ關スル規定ナリ同條ノ規定ニ依レバ凡テ商人ノ爲シタル行爲ハ營業ノ爲メニ爲シタルモノト推定スルヲ以テ商人ノ行爲ハ反對ノ證據ナキ限りハ之ヲ商行爲ト推定セサルヘカラス是レ既ニ本條第一項ヲ以テ營業ノ爲メニスル商人ノ行爲ハ之ヲ商行爲トセリト雖モ果シテ商人カ營業ノ爲メニ爲シタル行爲ナリヤ否ヤハ屢々事實問題トシテ疑義ノ生スルコトナルヲ以テ此等ノ疑ヲ決センカ爲メニ第二項ノ推定ヲ設ケタル

ナリ故ニ商人ハ其行爲ニ關シ營業ノ爲メニ爲シタリヤ否ヤノ事實問題ニ付キ反證ヲ提出シテ之ヲ事フコトヲ得ルト雖モ且其行爲ニシテ營業ノ爲メニ爲シタルコト確定シタル後ハ商法ノ規定ニ從ハサルコトヲ主張スルヲ得サルモノトス

第五節 代理

代理ノ何タルヤハ民法第一節第四章第三節ノ規定スル所ナリ、抑モ民法ハ通法ナリト雖モ特別ノ事情アル場合ニ於テハ之カ例外ヲ設クルハ至當ニシテ且必要ノコトナリ是レ商法ノ制定アル所以ニシテ予ハ本節ニ於テ民法ニ於ケル代理ニ關スル規定ヲ説明セズ單ニ民法ニ對スル二三種ノ例外ヲ説述スルニ止マルノミ

(第一)第一ノ例外ハ代理ノ條件ニ關スルモノナリ民法第九十九條ノ規定ニ依レハ代理人ノ爲シタル法律行爲カ直接ニ本人ニ對シテ効力ヲ生スルニハ左ノ二條件ヲ具備セザルヘカラス

- 一 代理人カ其代理權ノ範圍内ニ於テ法律行爲ヲ爲シタルコト
- 二 代理人カ自己ノ爲メニ非ス本人ノ爲メニ法律行爲ヲ爲スコトヲ表示シタ

ルコト

若シ此條件ノ一ヲ缺カンカ其法律行爲ハ直接ニ本人ニ對シテ効力ヲ生スルコトナシ換言スレハ代理關係ハ發生セサルモノナリ代理人ハ其法律行爲ヲ爲スニ當リテ常ニ本人ノ爲メニ爲スコトヲ表示スルヲ要スト雖モ必ス其意思ヲ明示スルヲ要セス默示ノ方法ニ依リ之ヲ表示スルモ可ナリ代理人法律行爲ヲ爲スニ當リ若シ前述第二ノ條件ヲ缺キタルトキハ民法第百條ノ規定ニ依リ其行爲ハ單ニ代理人ニ對シテ効力ヲ生スヘキノミ本人ハ此等ノ行爲ニ因リ何等ノ權利ヲ得又ハ義務ヲ負フヘキモノニ非サルナリ

以上ハ民法上代理ニ關スル規定ナリ商業上ノ法律行爲ニ於テハ時々取引上ノ秘密ノ爲メニ本人ノ爲メニスルコトヲ隱匿スルノ必要アリ此場合ニ於テ商法ハ其法律行爲ニシテ本人ニ對シ有効ナラシムヘキヤ否ノ疑問ヲ生ス左ニ其場合ヲ區別シテ之ヲ論ゼン

- 第一 代理人ハ本人ノ氏名ヲ明示セスト雖モ自己ノ爲メニ法律行爲ヲ行フニ非ルコトヲ表示シタルトキ

商行爲

予カ民法第九十九條ヲ解スル所ニ據レハ代理人ハ其法律行為ヲ爲スニ當リテ必シモ本人ノ氏名ヲ明示スルヲ要セス單ニ其他人ノ爲メニ爲スコトヲ表示セハ足レリ且特ニ商法ニ於テ正當ナル理由ナクシハ民法ノ除外例ヲ設クヘキモノニ非ス而シテ予ハ其正當ナル理由ヲ發見スル能ハサルヲ以テ此ノ如キ場合ニ對シテハ仍ホ民法ノ規定ヲ適スルヲ至當ナリト信ス

## 第二

本人ノ爲メニスルコトヲ表示セスシテ代理人カ法律行為ヲ行ヒタルトキ

民法第百條ノ規定ニ依レハ此場合ニ於テ代理人ノ爲シタル法律行為ハ唯代理人ニ對シテ効力アルノミ蓋シ之ヲ純理ヨリ論スルトキハ代理人ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ有セスシテ尙ホ他人ノ爲メニスルコトヲ表示セサルヲ以テ意思ト其表示ハ相一致セス隨テ其法律行為ハ無効ニシテ相手方ハ單ニ代理人ニ對シテ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ルノミ然レトモ抑モ損害賠償ナルモノハ相手方ヲ保護スヘキ完全ナル救済方

小爲替振込の注意

近來小爲替の盜難に罹るゝ  
と度々あるを以て小爲替振  
出の際には必ず受取人住所  
氏名欄内(即ち小爲替券面右  
方に在り)へ東京市麴町區富士  
見町六丁目十六番地和佛法  
律學校會計課と記入すへし  
若し右記入なくして盜難に  
遭ふも本校其責に任せざる  
べし

明治三十二年七月廿四日印刷  
明治三十二年七月廿五日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

編輯者

小田幹治郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷者

金子鐵五郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所

金子活版所

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 東京市麴町區富士見  
町六丁目十六番地

電話(番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可